

平成 24 年度に実施した高等専門学校機関別 認証評価に関する検証結果報告書

平成 26 年 2 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

はじめに

大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）では、認証評価を開放的で進化する評価とするために、評価の経験や評価を受けた機関等の意見を踏まえつつ、常に評価システムの改善を図ることとしている。

このため、平成 17 年 7 月に文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）となつて以降、はじめての経験となつた平成 17 年度実施の高等専門学校機関別認証評価において、評価の終了後、評価対象校及び評価担当者へのアンケート調査を実施し、その結果等をもとに評価の有効性、適切性について検証を行った。この結果、評価内容・方法等の改善・充実すべき点を把握でき、平成 18 年度実施の認証評価に反映させた。同様に平成 18 年度から平成 23 年度実施の高等専門学校の機関別認証評価においても評価終了後、アンケート調査を実施し、検証を行いそれぞれ平成 19 年度から平成 24 年度実施の認証評価に改善点等を反映させた。（この検証結果は年度ごとに「高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書」としてまとめている。）

平成 24 年度実施の高等専門学校機関別認証評価においても、引き続きアンケート調査を実施して検証を行うこととし、ここに平成 24 年度実施の認証評価（14 高等専門学校）に関する調査及び検証結果を取りまとめた。

目 次

はじめに

I 機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要	1
---------------------------	---

II 平成 24 年度実施の認証評価に関する検証

1. 検証の実施方法	5
------------	---

2. 項目別の検証

(1) 評価基準及び観点について	8
(2) 説明会・研修会について	10
(3) 自己評価書について	12
(4) 書面調査・訪問調査について	14
(5) 評価結果（評価報告書）について	17
(6) 評価の効果・影響について	20
(7) 評価の作業量等について	28
(8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善 について	31
(9) 評価についての全般的な意見・感想について	34

3. 総括	35
-------	----

参考資料

- 1 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
- 2 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
- 3 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
- 4 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
- 5 認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】（高等専門学校用）
- 6 認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】（高等専門学校用）

I 機構が実施した高等専門学校機関別認証評価の概要

平成 24 年度に実施した認証評価の検証をまとめるに当たって、まず機構が実施した高等専門学校の機関別認証評価の概要について触れておく。

高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、7 年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられている（学校教育法第 109 条、同法第 123 条及び学校教育法施行令第 40 条）。

機構は、この認証評価制度の下で、高等専門学校の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成 17 年 7 月、文部科学大臣から認証され、平成 17 年度より認証評価を開始した。平成 24 年度実施分の認証評価は 8 年目の実施に当たる。なお、平成 23 年度から、機構が実施する評価の第 2 サイクル期間に移行した。

1. 目的

認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行った。

- (1) 機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること。
- (2) 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。
- (3) 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくこと。

2. 実施体制

評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校の状況に応じた評価部会等を編成した。

評価部会等には、各高等専門学校の教育分野やその状況が多様であること等を勘案し、対象高等専門学校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

3. 方法・プロセス

方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

(1) 高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、『自己評価実施要項』に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成し、機構に提出した。

(2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

① 書面調査は、『評価実施手引書』に基づき、対象高等専門学校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象高等専門学校の状況を調査・分析した。

② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。

③ 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、高等専門学校全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。

なお、基準の多くが、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえ基本的な観点が設定されている。基準を満たしているかどうかの判断は、その基本的な観点の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。

④ 基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合や、基準を満たしているが、改善の必要が認められる場合等には、その旨の指摘も行った。

⑤ 高等専門学校全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての高等専門学校が機構の高等専門学校評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準がある場合には、高等専門学校全体として高等専門学校評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしている。）

4. スケジュール

(1) 平成23年6月に、平成24年度に機構が実施する認証評価に申請を予定している高等専門学校のうち、説明を希望する高等専門学校の関係者に対し、高等専門学校機関別認証評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、当該高等専門学校の自己評価担当者に対し、自己評価書の記載等について研修会を実施した。

(2) 平成 23 年 9 月から 10 月にかけて、以下の 14 高等専門学校から申請を受け、評価を実施することとなった。

○ 国立高等専門学校 (12 高等専門学校)

釧路工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、福井工業高等専門学校、長野工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、和歌山工業高等専門学校、徳山工業高等専門学校、高知工業高等専門学校、有明工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校

○ 公立高等専門学校 (1 高等専門学校)

東京都立産業技術高等専門学校

○ 私立高等専門学校 (1 高等専門学校)

金沢工業高等専門学校

(3) 平成 24 年 6 月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、高等専門学校評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

(4) 平成 24 年 6 月末に、対象高等専門学校から自己評価書の提出を受けた。

(5) 対象高等専門学校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは次のとおりであった。

24 年 7 月	書面調査の実施
8 月	評価部会、財務専門部会の開催 (書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定)
10~11 月	訪問調査の実施 (書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象高等専門学校の状況を調査)
12 月	評価部会、財務専門部会の開催 (評価結果 (原案) の作成)

(6) これらの調査結果を踏まえ、平成 25 年 1 月に評価委員会で評価結果 (案) を決定した。

(7) 評価結果 (案) に対する意見の申立ての機会を設け、平成 25 年 3 月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

5. 評価結果

平成 24 年度に認証評価を実施した 14 高等専門学校のうちすべてが、機構の定める高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果となった。

機構はこの評価結果を平成 25 年 3 月 27 日付で、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

※ 高等専門学校評価基準（機関別認証評価）は機構ウェブサイトを参照のこと。

http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/index.html

Ⅱ 平成 24 年度実施の認証評価に関する検証

1. 検証の実施方法

(1) アンケート調査の実施

平成 24 年度実施の認証評価の対象高等専門学校（以下「対象校」という。）及び評価担当者に対し、記名選択式回答（5 段階・2 段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

アンケート調査項目は次のとおりである。

[対象校]

1. 評価基準及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
 - (1) 自己評価について
 - (2) 訪問調査等について
 - (3) 意見の申立てについて
3. 評価の作業量、スケジュール等について
 - (1) 評価に費やした作業量について
 - (2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
 - (3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
 - (4) 評価のスケジュールについて
4. 説明会・研修会等について
5. 評価結果（評価報告書）について
 - (1) 評価報告書の内容等について
 - (2) 自己評価書及び評価報告書の公表について
 - (3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
 - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
 - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について
8. 評価の実施体制について
9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について
10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて
11. その他

〔評価担当者〕

1. 評価基準及び観点について
2. 評価の方法及び内容・結果について
 - (1) 自己評価書について
 - (2) 書面調査について
 - (3) 訪問調査について
 - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
 - (1) 評価に費やした作業量について
 - (2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
 - (3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
 - (4) 評価作業にかかった時間数について
5. 評価部会等の運営について
6. 評価全般について
7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

(2) アンケート調査結果等の検証

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査項目から、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。その上で、評価実施過程において機構が把握した問題点等も踏まえ、評価の有効性、適切性を検証した。

分析項目は以下のとおりである。

- (1) 評価基準及び観点について
- (2) 説明会・研修会について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価の効果・影響について
- (7) 評価の作業量等について
- (8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について
- (9) 評価についての全般的な意見・感想について

※アンケート調査に係る補足事項

1. アンケート用紙配付日程

	平成 24 年度
対象校	平成 25 年 3 月 27 日
評価担当者	平成 24 年 12 月 25 日

2. 平成 24 年度アンケートの回収状況

	回答数	回収率
対象校	14 校中 14 校	100%
評価担当者	20 人中 18 人	90%

2. 項目別の検証

(1) 評価基準及び観点について

機構が定める評価基準及び観点の構成や内容が、高等専門学校の研究活動等に関する「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして適切であったか、また、評価基準及び観点の中で対象校が自己評価を行う際に評価しにくいもの、評価担当者が評価しにくいものがあったかどうかなどについて検証を行った。

① 評価の目的等との関係について

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」（機関1-①、評1-①※）か及び「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」（機関1-②、評1-②）か質問したところ、対象校では、「質の保証」に対して、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」36%、「そう思う」64%）、「改善の促進」に対して、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）、評価担当者では、「質の保証」に対して、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」22%、「そう思う」78%）、「改善の促進」に対して肯定的な回答が100%（「強くそう思う」33%、「そう思う」67%）であった。

また、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」（機関1-③、評1-③）かとの質問に対しては、対象校では肯定的な回答が86%（「強くそう思う」29%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が14%、評価担当者では肯定的な回答が100%（「強くそう思う」22%、「そう思う」78%）であった。

次に、評価基準及び観点の構成や内容を、「教育活動を中心に設定していることは適切であった」（機関1-④、評1-④）かとの質問に対しては、対象校では肯定的な回答が100%（「強くそう思う」50%、「そう思う」50%）、評価担当者では肯定的な回答が94%（「強くそう思う」47%、「そう思う」47%）、「どちらとも言えない」が6%であった。

② 具体の評価基準及び観点について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価しにくい評価基準又は観点があった」（機関1-⑤）か質問したところ、「ある」が21%、「ない」が79%であった。

※「機関〇-〇」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】」における設問番号に対応
「評〇-〇」…参考資料「認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】」における設問番号に対応
設問の回答率については、小数点以下四捨五入のため合計が100%にならないものもある。また、未回答は除いている。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「評価しにくい評価基準又は観点があった」（評1-⑤）か質問したところ、「ある」が28%、「ない」が72%であった。

次に、対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、「内容が重複する評価基準又は観点があった」（機関1-⑥、評1-⑥）か質問したところ、対象校では「ある」が7%、「ない」が93%、評価担当者では「ある」が22%、「ない」が78%であった。

③ 評価と課題

評価基準及び観点の構成や内容は、対象校及び評価担当者から肯定的に評価されており、高等専門学校の研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして適切なものと考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることも適切であると考えられる。

評価しにくい、あるいは、内容が重複する評価基準又は観点があったかについては、おおむね肯定的な回答が得られているものの、一部の対象校及び評価担当者から評価しにくい、あるいは、内容が重複する評価基準又は観点があるとの回答が寄せられており、自由記述では、その具体的な評価基準及び観点が挙げられている。今後も引き続き、説明会等で対象校及び評価担当者の評価基準及び観点についての理解を深める必要があると考えられる。

(2) 説明会・研修会について

高等専門学校の関係者を対象に実施している説明会や、機構の評価を希望する高等専門学校の自己評価担当者等を対象に実施している研修会について、その有効性等の検証を行った。また、評価担当者を対象に実施している研修の内容の適切性等について検証を行った。

① 認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価説明会に関して、「説明会の内容は役立った」(機関4-③)か質問したところ、肯定的な回答が86% (「強くそう思う」57%、「そう思う」29%)、「どちらとも言えない」が14%であった。また、「説明会の内容は理解しやすかった」(機関4-②)かと質問したところ、肯定的な回答が93% (「強くそう思う」50%、「そう思う」43%)、否定的な回答が7% (「そう思わない」7%)、「説明会の配付資料は理解しやすかった」(機関4-①)かと質問したところ、肯定的な回答が93% (「強くそう思う」50%、「そう思う」43%)、否定的な回答が7% (「そう思わない」7%)であった。

次に、自己評価担当者等に対する研修会に関して、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った」(機関4-⑥)か質問したところ、肯定的な回答が78% (「強くそう思う」57%、「そう思う」21%)、「どちらとも言えない」が21%であった。また、「自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった」(機関4-⑤)かと質問したところ、肯定的な回答が93% (「強くそう思う」50%、「そう思う」43%)、否定的な回答が7% (「そう思わない」7%)、「自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった」(機関4-④)かとの質問については、肯定的な回答が93% (「強くそう思う」57%、「そう思う」36%)、否定的な回答が7% (「そう思わない」7%)であった。なお、「機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った」(機関4-⑦)かと質問したところ、肯定的な回答が93% (「強くそう思う」43%、「そう思う」50%)、「どちらとも言えない」が7%であった。

さらに、訪問説明に関して、「機構が行った訪問説明は役立った」(機関4-⑧)か質問したところ、肯定的な回答が100% (「強くそう思う」50%、「そう思う」50%)であった。

また、「説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった」(機関4-⑨)かとの質問については、肯定的な回答が77% (「強くそう思う」46%、「そう思う」31%)、「どちらとも言えない」が23%であった。

② 評価担当者に対する研修について

評価担当者に対するアンケート調査において、評価担当者に対する研修に関して、「研修の内容は役立った」(評3-③)か質問したところ、肯定的な回答が94% (「強

くそう思う」41%、「そう思う」53%）、「どちらとも言えない」が6%であった。また、「研修の説明内容は理解しやすかった」（評3-②）かとの質問については、肯定的な回答が88%（「強くそう思う」35%、「そう思う」53%）、「どちらとも言えない」が6%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）、「研修の配付資料は理解しやすかった」（評3-①）かとの質問については、肯定的な回答が82%（「強くそう思う」29%、「そう思う」53%）、「どちらとも言えない」が12%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。また、「自己評価書のサンプルの提示は役立った」（評3-④）かについては、肯定的な回答が77%（「強くそう思う」24%、「そう思う」53%）、「どちらとも言えない」が18%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。また、「研修に費やした時間の長さは適切であった」（評3-⑤）か質問したところ、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」18%、「そう思う」53%）、「どちらとも言えない」が24%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。

③ 評価と課題

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、実施内容、説明内容、配付資料のほか、訪問説明や機構の事務担当者の対応等は適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修についても、評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、実施内容、説明内容、配付資料のほか、自己評価書のサンプルの提示、実施時間は適切であると考えられる。

(3) 自己評価書について

評価の実施に当たり対象校が作成した自己評価書が、機構の定める評価基準及び観点に基づき、評価を行う上で適切なものとなっていたか、また、添付資料が適切であったかなどについて検証を行った。

① 自己評価書の記述について

対象校に対するアンケート調査において、「評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた」(機関2-(1)-①)か質問したところ、肯定的な回答が85%（「強くそう思う」21%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が14%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた」(評2-(1)-②)か質問したところ、肯定的な回答が39%（「そう思う」39%）、「どちらとも言えない」が56%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。

また、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた」(機関2-(1)-④)か質問したところ、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」21%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が21%であった。また、「自己評価書の完成度は満足できるものであった」(機関2-(1)-⑤)かとの質問については、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」7%、「そう思う」79%）、「どちらとも言えない」が7%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「対象校の自己評価書は理解しやすかった」(評2-(1)-①)か質問したところ、肯定的な回答が39%（「そう思う」39%）、「どちらとも言えない」が50%、否定的な回答が11%（「そう思わない」11%）であった。

また、「自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった」(機関2-(1)-⑥)か質問したところ、肯定的な回答が50%（「強くそう思う」21%、「そう思う」29%）、「どちらとも言えない」が21%、否定的な回答が29%（「そう思わない」29%）であった。

このほか、「自己評価書の作成に当たって、既に機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした」(機関2-(1)-⑦)かとの質問については、「参考にした」が64%、「参考にしなかった」が36%であった。

② 自己評価書の添付資料について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた」(機関2-(1)-②)か質問したところ、肯定的な回答が43%（「強くそう思う」7%、「そう思う」36%）、「どちらとも

言えない」が36%、否定的な回答が21%（「そう思わない」21%）であった。また、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」（機関2-（1）-③）かとの質問については、「迷った」が43%、「迷っていない」が57%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」（評2-（1）-③）か質問したところ、肯定的な回答が39%（「そう思う」39%）、「どちらとも言えない」が50%、否定的な回答が11%（「そう思わない」11%）であった。

③ 評価と課題

自己評価書の記述について、対象校では、評価基準及び観点に基づいた適切な自己評価により、わかりやすく完成度の高い自己評価書が作成されたとおおむね認識している。一方、自己評価書は理解しやすかったか、評価基準及び観点の内容が適切に記述されていたかについては、評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多いとは言えない。自由記述においても、評価担当者から、資料についての説明が自己評価書に記入されていない、同一校でも基準によって解釈が異なっている、評価基準ごとに矛盾が生じているといった意見が寄せられていることから、今後も引き続き、説明会等で自己評価書の書き方について対象校の理解を深めるとともに、対象校においては自己評価書全体の記述内容を通読して管理監督する担当者が必要であることを強調することが求められる。なお、自己評価書作成に当たっての字数制限については、おおむね肯定的に評価されており、適切な量であったと考えられる。このほか、対象校の回答から、自己評価書の作成に当たり、多くの対象校が既に機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考としていることがわかる。

自己評価書の添付資料については、一部の対象校から、既に蓄積していたもので対応できなかった、どのようなものを用意すればよいか迷ったとの回答が寄せられている。また、自己評価書に必要な根拠資料が引用・添付されていたかについては、評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多いとは言えないため、今後も引き続き、添付資料の明確化に努め、説明会等で対象校の理解を深める工夫が必要である。さらに、自由記述において、評価担当者から、自己評価書中に根拠資料が差し込まれる形式では、先に示された根拠資料が、後の基準・観点で参照された場合、探し出すのに手間がかかるという意見が寄せられている。機構では、資料を別冊とすることが可能である旨、『自己評価実施要項』に掲載しているが、平成26年度以降に実施される認証評価においては、原則、資料を別冊として提出するよう対象校に呼びかけている。

(4) 書面調査・訪問調査について

対象校から提出された自己評価書等に基づき、評価部会において評価担当者が対象校の状況を分析する書面調査について、分析の方法、事実誤認の有無を確認するために通知する「書面調査による分析状況」の内容が適切であったかについて検証した。また、書面調査の後、対象校を訪問して書面調査では確認できない事項等を中心に調査する訪問調査について、その内容や方法、あらかじめ通知する「訪問調査時の確認事項」の内容が適切であったかなどについて検証を行った。

① 書面調査による分析について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」（機関2-(2)-①)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」21%、「そう思う」79%）であった。

また、評価担当者に対するアンケート調査において、書面調査の分析内容を記入するために、「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」（評2-(2)-①)か質問したところ、肯定的な回答が73%（「強くそう思う」6%、「そう思う」67%）、「どちらとも言えない」が22%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。

また、「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった」（評2-(2)-②)か質問したところ、肯定的な回答が6%（「そう思う」6%）、「どちらとも言えない」が61%、否定的な回答が33%（「そう思わない」22%、「全くそう思わない」11%）であった。

② 訪問調査時の確認事項について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」（機関2-(2)-②)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」36%、「そう思う」64%）であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった」（評2-(3)-①)か質問したところ、肯定的な回答が94%（「強くそう思う」6%、「そう思う」88%）、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。

③ 訪問調査の実施内容について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く）が質問した内容は適切であった」（機関2-(2)-③)か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」36%、「そう思う」64%）であった。

また、「訪問調査の実施内容として高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員

等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった」(機関2-(2)-④)か質問したところ、肯定的な回答が86%、「強くそう思う」57%、「そう思う」29%、「どちらとも言えない」が7%、否定的な回答が7%、「そう思わない」7%、「訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった」(機関2-(2)-⑤)か質問したところ、肯定的な回答が93%、「強くそう思う」29%、「そう思う」64%、「どちらとも言えない」が7%、「訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった」(機関2-(2)-⑥)か質問したところ、肯定的な回答が85%、「強くそう思う」21%、「そう思う」64%、「どちらとも言えない」が7%、否定的な回答が7%、「そう思わない」7%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった」(評2-(3)-③)か質問したところ、肯定的な回答が100%、「強くそう思う」75%、「そう思う」25%、「訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった」(評2-(3)-④)か質問したところ、肯定的な回答が100%、「強くそう思う」44%、「そう思う」56%、「訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった」(評2-(3)-⑤)か質問したところ、肯定的な回答が63%、「強くそう思う」25%、「そう思う」38%、「どちらとも言えない」が25%、否定的な回答が13%、「そう思わない」13%であった。

次に、「訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた」(評2-(3)-②)かとの質問については、肯定的な回答が100%、「強くそう思う」24%、「そう思う」76%であった。

さらに、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」(機関2-(2)-⑦)か質問したところ、肯定的な回答が93%、「強くそう思う」36%、「そう思う」57%、「どちらとも言えない」が7%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた」(評2-(3)-⑥)か質問したところ、肯定的な意見が94%、「強くそう思う」19%、「そう思う」75%、「どちらとも言えない」が6%であった。

④ 訪問調査時の人数・構成等について

対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（機関2-（2）-⑧）か質問したところ、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」29%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が7%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった」（評2-（3）-⑦）か質問したところ、肯定的な回答が94%（「強くそう思う」44%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が6%であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う」（機関2-（2）-⑨）か質問したところ、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」43%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が7%であった。

また、評価担当者に対するアンケート調査において、「訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった」（評2-（3）-⑧）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」81%、「そう思う」19%）であった。

⑤ 評価と課題

書面調査による分析については、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、訪問調査の前に提示した「書面調査による分析状況」の内容や、機構が示した書面調査票等の様式は適切であると考えられる。また、書面調査を行うために対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかったとの回答はあまり寄せられていないが、今後も要望を把握していくことが求められる。

また、訪問調査についても、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、訪問調査の前に提示した「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校からの回答内容、訪問調査時の評価担当者による質問内容や訪問調査の具体的な実施内容や方法、時間配分、評価担当者の人数や構成、機構の事務担当者の対応は適切であると考えられる。また、訪問調査によって不明な点を十分に確認でき、機構の評価担当者と対象校との間で教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができているとともに、評価担当者への研修についても、適切であると考えられる。

(5) 評価結果（評価報告書）について

機構の作成した評価報告書の内容や意見の申立ての実施方法等が適切なものであったかについて検証を行った。

① 評価報告書の内容について

対象校に対するアンケート調査において、「総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった」（機関5-(1)-⑨）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」57%、「そう思う」43%）であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった」（機関5-(1)-①）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった」（機関5-(1)-②）か、「評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった」（機関5-(1)-③）か質問したところ、「質の保証」については、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」43%、「そう思う」57%）、「改善の促進」については、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」36%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が14%、「社会からの理解と支持」については、肯定的な回答が79%（「強くそう思う」29%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が21%であった。

また、「評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた」（機関5-(1)-⑦）か質問したところ、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」14%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が21%であった。

次に、「評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった」（機関5-(1)-④）か質問したところ、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」43%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が7%、「評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった」（機関5-(1)-⑤）か質問したところ、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」43%、「そう思う」57%）、「評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった」（機関5-(1)-⑥）か質問したところ、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」43%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が14%であった。

さらに、評価報告書の記述について、「評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった」（機関5-(1)-⑧）か質問したところ、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」43%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が7%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」（評2-(4)-①）か質問したところ、肯定的な回答が94%（「強くそう思う」33%、「そう思う」61%）、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。

次に、「基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった」(評2-(4)-②)か質問したところ、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」22%、「そう思う」56%）、「どちらとも言えない」が22%、「評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった」(評2-(4)-④)かとの質問については、肯定的な回答が77%（「強くそう思う」33%、「そう思う」44%）、「どちらとも言えない」が17%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。

また、「評価結果全体としての分量は適切であった」(評2-(4)-③)か質問したところ、肯定的な回答が59%（「強くそう思う」12%、「そう思う」47%）、「どちらとも言えない」が35%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。

② 評価報告書等の公表について

対象校に対するアンケート調査において、「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している」(機関5-(2)-①)か質問したところ、「公表している」が71%、「公表していない」が29%であった。

また、「評価報告書をウェブサイト等で公表している」(機関5-(2)-②)かとの質問については、「公表している」が79%、「公表していない」が21%であった。

次に、「評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた」(機関5-(3)-①)か質問したところ、肯定的な回答が44%（「そう思う」44%）、「どちらとも言えない」が56%であった。

③ 意見の申立てについて

対象校に対するアンケート調査において、「意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった」(機関2-(3)-①)かと質問したところ、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」57%、「そう思う」21%）、「どちらとも言えない」が21%であった。

また、「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載したことは適切であった」(機関2-(3)-②)かと質問したところ、肯定的な回答が83%（「強くそう思う」50%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が17%であった。

④ 評価と課題

評価報告書の内容については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らして適切なものであると考えられる。また、評価報告書は構成及び内容がわかりやすく、評価担当者の書面調査、訪問調査

の内容が評価結果に十分反映されており、評価の方法や記述形式、全体の分量もおおむね適切であり、教育研究活動等に関して新たな視点が得られるなど、総じて内容は適切なものであると考えられる。

また、今回の評価のために作成した自己評価書及び評価報告書はウェブサイト等でおおむね公表されており、アンケート回答後に公表している対象校も一部あった。しかしながら、評価結果に関するマスメディア等からの報道の適切性については、肯定的な回答は必ずしも多いとは言えず、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、認証評価機関 12 機関により組織される認証評価機関連絡協議会を通じ、他の認証評価機関とも協力して、更に工夫を行っていく必要がある。なお、平成 25 年度は、認証評価機関連絡協議会において、報道関係者及び高等学校関係者との意見交換会を実施した。

今回の機関別認証評価においては意見の申立てを行った対象校はなかったが、意見の申立ての実施方法やスケジュール、内容や対応の評価報告書への掲載についてはおおむね肯定的に評価されており、適切であると考えられる。

(6) 評価の効果・影響について

今回の評価のために自己評価を実施したことや評価結果を受けたこと、対象校に対して評価を実施したことがどのような効果・影響を与えたか、また評価結果をどのように活用しているかについて検証を行った。

① 自己評価を行ったことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、認証評価を受けるに当たって自己評価を行ったことによる効果・影響について、「貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた」(機関6-(1)-①)か質問したところ、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」43%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が7%、「貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた」(機関6-(1)-②)か質問したところ、肯定的な回答が93%（「強くそう思う」36%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が7%であった。

次に、教職員の意識への効果・影響について、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した」(機関6-(1)-③)か質問したところ、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」14%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が21%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した」(機関6-(1)-④)かとの質問については、肯定的な回答が57%（「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が36%、否定的な回答が7%（「全くそう思わない」7%）であった。「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した」(機関6-(1)-⑨)かとの質問については、肯定的な回答が64%（「強くそう思う」14%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が29%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。

また、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した」(機関6-(1)-⑩)かとの質問については、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」14%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が14%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。

さらに、「貴校の教育研究活動等の改善を促進した」(機関6-(1)-⑤)かとの質問については、肯定的な回答が92%（「強くそう思う」21%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が7%、「貴校のマネジメントの改善を促進した」(機関6-(1)-⑦)かとの質問については、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」7%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が29%であった。

また、「貴校の個性的な取組を促進した」(機関6-(1)-⑧)かとの質問については、肯定的な回答が72%（「強くそう思う」29%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が29%であり、「貴校の将来計画の策定に役立った」(機関6-(1)-⑥)かとの質問については、肯定的な回答が64%（「強くそう思う」14%、「そう思

う」50%)、「どちらとも言えない」が29%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。

② 評価結果を受けたことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、評価結果を受けて今後どのような効果・影響があると思うか質問したところ、「貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる」（機関6-(2)-①）かとの質問については、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」36%、「そう思う」64%）、「貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる」（機関6-(2)-②）かとの質問については、肯定的な回答が100%（「強くそう思う」29%、「そう思う」71%）であった。

次に、教職員の意識への効果、影響について、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する」（機関6-(2)-③）かとの質問については、肯定的な回答が86%（「強くそう思う」7%、「そう思う」79%）、「どちらとも言えない」が7%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する」（機関6-(2)-④）かとの質問については、肯定的な回答が64%（「強くそう思う」7%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が29%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する」（機関6-(2)-⑨）かとの質問については、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」7%、「そう思う」71%）、「どちらとも言えない」が14%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する」（機関6-(2)-⑪）かとの質問については、肯定的な回答が64%（「強くそう思う」7%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が29%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。

また、「教職員に評価結果の内容が浸透する」（機関6-(2)-⑩）か質問したところ、肯定的な回答が64%（「強くそう思う」14%、「そう思う」50%）、「どちらとも言えない」が29%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であった。

次に、「貴校の将来計画の策定に役立つ」（機関6-(2)-⑥）かとの質問については、肯定的な回答が64%（「強くそう思う」21%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が29%、否定的な回答が7%（「そう思わない」7%）であり、「貴校の個性的な取組を促進する」（機関6-(2)-⑧）かとの質問については、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」14%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が29%であった。

また、「貴校の教育研究活動等の質が保証される」（機関6-(2)-⑫）かとの質問については、肯定的な回答が85%（「強くそう思う」21%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が14%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う」（評

6-①) か質問したところ、肯定的な回答が 95% (「強くそう思う」17%、「そう思う」78%)、「どちらとも言えない」が 6%であった。

さらに、対象校に対するアンケート調査において、「貴校の教育研究活動等の改善を促進する」(機関 6-(2)-⑤) かの質問については、肯定的な回答が 86% (「そう思う」86%)、「どちらとも言えない」が 7%、否定的な回答が 7% (「そう思わない」7%)、「貴校のマネジメントの改善を促進する」(機関 6-(2)-⑦) かと質問したところ、肯定的な回答が 71% (「強くそう思う」14%、「そう思う」57%)、「どちらとも言えない」が 29%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う」(評 6-②) か質問したところ、肯定的な回答が 89% (「強くそう思う」17%、「そう思う」72%)、「どちらとも言えない」が 11%であった。

次に、対象校に対するアンケート調査において、「学生(今後入学する学生を含む)の理解と支持が得られる」(機関 6-(2)-⑬) か質問したところ、肯定的な回答が 57% (「強くそう思う」7%、「そう思う」50%)、「どちらとも言えない」が 36%、否定的な回答が 7% (「そう思わない」7%) であり、「広く社会の理解と支持が得られる」(機関 6-(2)-⑭) かの質問については、肯定的な回答が 71% (「強くそう思う」21%、「そう思う」50%)、「どちらとも言えない」が 29%であった。一方、評価担当者に対するアンケート調査において、「今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う」(評 6-③) か質問したところ、肯定的な回答が 67% (「強くそう思う」6%、「そう思う」61%)、「どちらとも言えない」が 28%、否定的な回答が 6% (「そう思わない」6%) であった。

また、「他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする」(機関 6-(2)-⑮) かの質問については、肯定的な回答が 79% (「そう思う」79%)、「どちらとも言えない」が 21%であった。

③ 評価結果の活用について

対象校における今後の評価結果の活用予定について質問(複数回答可)したところ、「貴校の広報誌に評価結果を掲載する」が 79%、「貴校のウェブサイトで評価結果を公表する」が 86%、「資金獲得のための申請書に記載する」が 7%、「学生募集の際に用いる」が 50%、「共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる」が 7%であった。

また、機構の評価を受けたことを契機に、実施を予定している(または実施済みの)変更・改善の取組として、対象校から次の事例が挙げられた。なお、文末【 】内の数字は、変更・改善の際の機構の評価(機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む)の参考度を

5段階で対象校が示したものである。

【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

(基準1)「高等専門学校の目的」

- ・(課題) 準学士課程、専攻科課程において共通の教育目標が定められ、養成しようとする人物像を含む達成しようとする基本的な成果がそれぞれの学科、専攻ごとに定められているが、目指すべき成果が学生に十分理解できるようにはなっていない。

(変更・改善) 教育目標や育成しようとする人物像等を総合的に見直す。また、学生にも理解しやすい周知方法を検討する。【5】

- ・(課題) 本校の目的は、学習・教育目標等で明らかにしているが、その達成レベルは明確でない。

(変更・改善) カリキュラム変更を予定しており、モデル・コア・カリキュラムとの整合性を取りながら、達成レベルを設定する予定である。【2】

- ・(課題) 卒業時、修了時に身に付ける学力・資質・能力として定めた学習・教育目標の学生への周知については、周知を図っているものの、改善の余地がある。

(変更・改善) 学習・教育目標について、4月当初に全学生に対する説明を実施した。【5】

- ・(課題) 構内の各所に当校独自の工夫がなされた時計と一緒にした学習・教育目標の掲示等が設置されているものの、学習・教育目標の細目である達成項目については、学校の構成員の認知度は十分でない。

(変更・改善) 平成25年度より学校の構成員に対する学習・教育目標の説明の機会を増やすなど、細目の達成項目に関する認知度の向上を図っている。【5】

- ・(課題) 準学士課程における卒業時に身に付ける学力・資質・能力の学生の周知状況が十分とは言えない。

(変更・改善) シラバスの全科目において、準学士課程の学習・教育目標を明記し、学生が確認できるようにした。【5】

- ・(課題) 準学士課程の目標や身に付けるべきことがらが不明確。

(変更・改善) 準学士課程の目標や身に付けるべきことがらを明確に設定し、ウェブサイトで公表済み。【5】

- ・(課題) 学生へのアンケート結果から見て、目的についての認知度が十分ではない。

(変更・改善) 4月に実施する履修に関するガイダンスをはじめとする各種ガイダンスにおいて改めて周知を図ることとしている。【5】

(基準2)「教育組織(実施体制)」

- ・(課題) 基準2の学校の目的を構成員へ周知しているが認知度が低い。
(変更・改善) 全学生にシラバスの説明時に教育理念・目標を関連付けて説明するように改善した。【4】

(基準4)「学生の受入」

- ・(課題) 実入学者数の改善に資する取組が行われているものの、一部の学科において、実入学者数が定員を下回る状況となっている。
(変更・改善) 平成25年度の本科入試から公立高校との完全併願制を実施し、入学者数の確保を目指している。【5】
- ・(課題) アドミッション・ポリシーが定められ、それに適合する入学者選抜を工夫しているものの、特に準学士課程の学力選抜では、その実施方法は、アドミッション・ポリシーを十分反映したものとなっていない。また、実際にアドミッション・ポリシーに沿った学生が選抜されたかを検証し、その結果を基に入学者選抜方法を改善する取組は十分整備されていない。
(変更・改善) 学力選抜の実施方法を検討する。アドミッション・ポリシーに沿った学生が選抜されたかの検証を教務委員会を中心に実施する。【4】
- ・(課題) アドミッション・ポリシーの改善の必要性がある。(訪問調査時に指摘)
(変更・改善) アドミッション・ポリシーの改訂について、学内の関係委員会において審議、検討し、運営会議において承認された。【5】
- ・(課題) アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかを検証する取組において、より明確に検証し、それを基に入学者選抜に反映するシステムを構築する取組が十分ではない。
(変更・改善) アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかを検証する取組において、より明確に検証し、それを基に入学者選抜に反映するシステムを構築する。【3】
- ・(課題) アドミッション・ポリシーに適合した学生を受け入れているかの状況の検証は開始されているものの、現状では検証結果を活かした入学者選抜制度の改善につながっていない。
(変更・改善) 入試検討委員会の組織変更を行い、検証及び検討する体制を強化した。検証を継続するとともに、改善に向けた検討を行うこととした。【5】

(基準5)「教育内容及び方法」

- ・(課題) 準学士課程の一部科目において、複数年度に渡り、同一の試験問題が出題されている。
(変更・改善) 指摘された科目は着任2年目教員の担当科目であり、当該教員には十分な説明とともに改善を促した。また、平成25年度には再試験科目も含め

た成績資料のチェック方法の改善を予定している。【5】

- ・(課題) 準学士課程、専攻科課程とも、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、評価方法の明示等内容が適切に記載されているものの、それぞれの授業科目の達成目標に当校の目標が示されていない。

(変更・改善) 本校の教育目標を記載するようシラバスの様式を変更した。【4】

- ・(課題) 学修単位科目において、課題等の実施状況の把握や評価方法が学校として統一されていない。

(変更・改善) 平成 25 年度シラバスの一部見直しを行い、学修単位科目の記載方法を改善したが、今後も継続した改善を行う予定である。【4】

- ・(課題) 準学士課程の1年次から3年次に配置された授業科目のシラバスには、学習・教育目標との関連が明記されていない。

(変更・改善) シラバスの全科目において、準学士課程の学習・教育目標を明記した。【5】

- ・(課題) 準学士課程の教育課程の体系がわかりにくい。

(変更・改善) わかりやすく整理し、平成 25 年度のシラバスに反映している。【4】

- ・(課題) 基準5の低学年生の成績評価において試験問題の保管が不十分である旨の指摘を受けた。

(変更・改善) 平成 25 年度から低学年生の試験問題を全部保管するように改善した。【5】

- ・(課題) 準学士課程の教育目標を達成する科目群の効果的な配置について、見直しの検討を進めているものの、改善の余地がある。

(変更・改善) 科目群の効果的な配置を行うため、国立高等専門学校機構が進めているコア・カリキュラムも参考にし、来年度からカリキュラムの改善・充実を行うこととしている。【4】

- ・(課題) 専攻科課程の教育目標を達成するための効果的な科目群の配置に関しては、改善の余地がある。

(変更・改善) 専攻科の学習・教育到達目標に対応する科目配置について、新たな科目を追加するなどの検討を行い、学生が学習・教育到達目標を達成できるように教育課程および専攻科の目標達成基準を改善・整備することとしている。

【4】

- ・(課題) 専攻科課程のシラバスが、学修単位科目についての予習や復習の指示を明示する形にはなっていない。

(変更・改善) 予習や復習に関する表記についての検討を行い、平成 25 年度発行のものから明示するよう改善を行った。【5】

(基準6)「教育の成果」

- ・(課題) 準学士課程において、卒業時に学生が身に付ける学力や資質・能力についての達成状況を把握・評価する基準に基づいた、具体的な達成状況の把握・評価は、十分には実施されていない。
(変更・改善) 平成 25 年度において、達成状況を把握・評価する取組の見直しを予定している。【5】
- ・(課題) 学習達成度評価の結果は、各授業担当教員が把握し、授業改善に役立っているが、学校としてこの評価結果の収集・分析等は現在行っていない。
(変更・改善) 教務委員会と授業担当教員が連携して、評価結果の分析を行う。【4】
- ・(課題) 学生が行う学習達成度評価は、実施されているものの、その分析・評価は十分とは言えず、改善の余地がある。
(変更・改善) 学内の関係委員会において、分析・評価を開始した。【5】
- ・(課題) 準学士課程の達成度アンケートが平成 20 年度以降実施されていない。
(変更・改善) 平成 24 年度より実施している。【5】
- ・(課題) 学生が行う学習達成度評価において、準学士課程、専攻科課程ともに、語学力を含むコミュニケーション能力に対して低い評価結果となっている。
(変更・改善) 語学力を含むコミュニケーション能力を向上させるために、国際交流、海外語学研修、海外インターンシップ等を推進していくこととしている。【4】

(基準 9) 「教育の質の向上及び改善のためのシステム」

- ・(課題) 教育評価システムサイクルの運用が十分ではない。
(変更・改善) 自己点検・評価委員会は、教育改善の機能性向上のために平成 24 年度、組織変更を行った。このため、まだ同委員会の実績はないが、PDCA サイクルに沿った教育改善が客観的に円滑かつ効率良く行えるようにしている。【5】
- ・(課題) 効果的な自己点検・評価の実施に関しては、学校として策定した評価項目の設定について、改善の余地がある。
(変更・改善) 学校として策定した評価項目の設定について、本校の中期計画等で設定している評価項目を取り入れることで改善を行うこととしている。【4】

(基準 11) 「管理運営」

- ・(課題) 【基準 11】 自己点検・評価結果の結果は公表されているが、十分に記載されていない。
(変更・改善) 平成 24 年度から PDCA サイクルがわかるように、記載方法を改善した。【5】

(その他)

- ・(課題) 目的の周知状況の把握。
(変更・改善) アンケートの実施。【3】
- ・(課題) 複数年にわたり同一問題が散見される。
(変更・改善) 検討中。【4】

④ 評価と課題

自己評価を行ったことによる効果・影響については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、教育研究活動等の全般的な状況や今後の課題の把握及び改善の促進、評価に関する教職員の知識や技術の向上、教育研究活動等の組織的な運営や自己評価の重要性の教職員への浸透、各教員の教育研究活動等に取り組む意識の向上、マネジメントの改善促進、個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与に有効であると考えられる。

次に、評価結果を受けたことによる効果・影響については、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、教育研究活動等の全般的な状況や今後の課題の把握、教育活動等の質の保証及び改善の促進、教育研究活動等の組織的な運営の重要性の教職員への浸透に有効と考えられる。また、各教員の教育研究活動等に取り組む意識の向上、マネジメントの改善促進、個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与、自己評価の重要性の教職員への浸透、教職員への評価結果の内容の浸透、評価に関する教職員の知識や技術の向上、学生や社会からの理解と支持を得ることにもおおむね有効であると考えられる。さらに、他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にしようとするにもおおむね効果・影響があると考えられる。

評価結果の活用については、対象校から具体的な改善取組事例が挙げられ、対象校が評価結果を基に実際に教育研究活動等の改善・向上に取り組んでいることがわかる。今後も引き続き、機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

(7) 評価の作業量等について

今回の評価の実施に係る作業量や作業期間がどうであったかを対象校、評価担当者の双方について検証を行った。

① 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間について

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の作成」(機関3-(1)-①)に関して、作業量については、「大きい」とする回答が100%（「とても大きい」43%、「大きい」57%）であった。

次に、「訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応」(機関3-(1)-②、機関3-(2)-①)に関して、作業量については、「大きい」とする回答が85%（「とても大きい」21%、「大きい」64%）、「適当」が14%であった。また、作業期間については、2～3週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」とする回答が7%（「とても長い」7%）、「適当」が50%、「短い」とする回答が43%（「短い」36%、「とても短い」7%）であった。

続いて、「訪問調査のための事前準備」(機関3-(1)-③、機関3-(2)-②)に関して、作業量については、「大きい」とする回答が50%（「とても大きい」7%、「大きい」43%）、「適当」が50%であった。また、作業期間については、4週間程度の期間を設けているが、これについて「長い」とする回答が14%（「長い」14%）、「適当」が71%、「短い」とする回答が14%（「短い」14%）であった。

次に、「訪問調査当日の対応」(機関3-(1)-④、機関3-(2)-③)に関して、作業量については、「大きい」とする回答が36%（「とても大きい」7%、「大きい」29%）、「適当」が64%であった。また、作業期間については、1校当たり1日半の日程としているが、これについて「長い」とする回答が14%（「長い」14%）、「適当」が86%であった。

さらに、「意見の申立て」(機関3-(1)-⑤、機関3-(2)-④)に関して、作業量については、「適当」が44%、「小さい」とする回答が55%（「小さい」22%、「とても小さい」33%）であった。作業期間については、4週間程度の期間を設けているが、「適当」が89%、「短い」とする回答が11%（「とても短い」11%）であった。

評価担当者に対するアンケート調査において、「自己評価書の書面調査」(評4-(1)-①、評4-(2)-①)に関して、作業量については、評価担当者1人当たり平均で40.1時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が84%（「とても大きい」28%、「大きい」56%）、「適当」が17%であった。また、作業期間については、7月からの1か月程度の期間を設定しているが、これについて「適当」が47%、「短い」とする回答が53%（「短い」47%、「とても短い」6%）であった。

次に「訪問調査への参加」(評4-(1)-②、評4-(2)-②)に関して、作業量については、評価担当者1人当たり平均で15.1時間と回答されているが、これにつ

いて「大きい」とする回答が13%（「大きい」13%）、「適当」が81%、「小さい」とする回答が6%（「小さい」6%）であった。また、作業期間については、1校当たり1日半の日程としているが、これについて「適当」とする回答が87%、「短い」とする回答が14%（「短い」7%、「とても短い」7%）であった。

さらに、「評価結果（原案）の作成」（評4-（1）-③、評4-（2）-③）に関して、作業量については、評価担当者1人当たり平均で17.3時間と回答されているが、これについて「大きい」とする回答が17%（「大きい」17%）、「適当」が83%であった。また、作業期間については、「適当」が100%であった。

② 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

対象校に対するアンケート調査において、評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったかについて質問したところ、「貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（機関3-（3）-①）かとの質問については、肯定的な回答が78%（「強くそう思う」14%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が21%、「貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった」（機関3-（3）-②）かとの質問については、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」7%、「そう思う」64%）、「どちらとも言えない」が29%、「貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった」（機関3-（3）-③）かとの質問については、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」14%、「そう思う」57%）、「どちらとも言えない」が14%、否定的な回答が14%（「そう思わない」14%）であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、評価に費やした労力が「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったかについて質問したところ、「対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった」（評4-（3）-①）かとの質問については、肯定的な回答が77%（「強くそう思う」24%、「そう思う」53%）、「どちらとも言えない」が24%、「対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった」（評4-（3）-②）かとの質問については、肯定的な回答が71%（「強くそう思う」24%、「そう思う」47%）、「どちらとも言えない」が29%、「対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった」（評4-（3）-③）かとの質問については、肯定的な回答が59%（「強くそう思う」12%、「そう思う」47%）、「どちらとも言えない」が35%、否定的な回答が6%（「そう思わない」6%）であった。

③ 評価のスケジュールについて

対象校に対するアンケート調査において、「自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった」（機関3-（4）-①）か質問したところ、「適当である」が93%、「適当でない」が7%であった。

また、「訪問調査の実施時期（10月～11月）は適当であった」（機関3-（4）-②）かとの質問については、「適当である」が86%、「適当でない」が14%であった。

④ 評価と課題

評価に費やした対象校の作業量及び作業期間については、訪問調査の事前準備及び訪問調査当日の対応に係る作業量及び作業期間、並びに、「訪問調査時の確認事項」への対応に係る作業期間は、おおむね肯定的に評価されており、適切であると考えられる。また、意見の申立てについては、負担を感じていない対象校が半数程度あったが、自己評価書の作成及び「訪問調査時の確認事項」への対応に係る作業量については、大きいとの回答が寄せられている。一方、対象校が評価作業に費やした労力は、おおむね肯定的に評価されており、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったと考えられる。これらのことから、対象校は、評価に費やす作業に対して負担を感じているものの、評価に費やす労力は、評価の目的におおむね見合うと考えていることがわかる。機構では説明会資料等において観点ごとの留意点や根拠データ例を示すなどの取組を行っているが、今後も引き続き、説明会等で対象校の理解を深めるとともに、評価の効率化に努める必要がある。

評価に費やした評価担当者の作業量及び作業期間については、訪問調査への参加、評価結果（原案）の作成に係る作業量及び作業期間は肯定的に評価されており、適切であると考えられるが、自己評価書の書面調査については、作業量が多く、作業期間は短いとの回答が寄せられている。一方、評価担当者が評価作業に費やした労力は、おおむね肯定的に評価されており、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして見合うものであったと考えられる。これらのことから、評価担当者は、評価に費やす作業に対して負担を感じているものの、評価に費やす労力は、評価の目的に照らしておおむね見合うと考えていることがわかる。今後も引き続き、説明会等で対象校の自己評価書への理解を深めることにより、評価担当者の負担軽減を図る必要がある。

評価のスケジュールについては、対象校から肯定的に評価されており、自己評価書の提出時期及び訪問調査の実施時期はいずれも適切であると考えられる。

(8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

前回の認証評価を受けたことが対象校にどのような効果・影響を与えたか、また対象校が前回の認証評価を受けた時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて検証を行った。

① 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

対象校に対するアンケート調査において、前回の認証評価を受けたことによりどのような効果・影響があったかについて、「教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった」（機関9-①）か、「教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった」（機関9-②）か、「教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった」（機関9-③）か質問したところ、「質の保証」については、肯定的な回答が62%（「強くそう思う」8%、「そう思う」54%）、「どちらとも言えない」が38%、「改善の促進」については、肯定的な回答が85%（「強くそう思う」8%、「そう思う」77%）、「どちらとも言えない」が15%、「社会からの理解と支持」については、肯定的な回答が25%（「そう思う」25%）、「どちらとも言えない」が75%であった。

一方、評価担当者に対するアンケート調査において、前回の認証評価を受けたことによりどのような効果・影響があったかについて、「教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった」（評7-①）か、「教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった」（評7-②）か、「教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった」（評7-③）か質問したところ、「質の保証」については、肯定的な回答が50%（「強くそう思う」7%、「そう思う」43%）、「どちらとも言えない」が50%、「改善の促進」については、肯定的な回答が60%（「そう思う」60%）、「どちらとも言えない」が40%、「社会からの理解と支持」については、肯定的な回答が21%（「そう思う」21%）、「どちらとも言えない」が79%であった。

② 前回の認証評価を受けた時の評価プロセスとの比較について

対象校に対するアンケート調査において、前回の認証評価を受けた時と比較して当機構の認証評価プロセスは改善されたか質問したところ、評価基準及び観点について、「評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった」（機関10-①）かとの質問については、肯定的な回答が77%（「強くそう思う」23%、「そう思う」54%）、「どちらとも言えない」が23%、「評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった」（機関10-②）かとの質問については、肯定的な回答が85%（「強くそう思う」8%、「そう思う」77%）、「どちらとも言えない」が15%であった。

また、説明会・研修会について、「説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった」（機関10-⑥）か質問したところ、肯定的な回答が75%（「強

くそう思う」42%、「そう思う」33%）、「どちらとも言えない」が25%であった。

次に、訪問調査について、「訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった」（機関 10-③）か質問したところ、肯定的な回答が85%（「強くそう思う」23%、「そう思う」62%）、「どちらとも言えない」が15%であった。

評価結果（評価報告書）については、「評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった」（機関 10-⑦）か質問したところ、肯定的な回答が84%（「強くそう思う」15%、「そう思う」69%）、「どちらとも言えない」が15%、「貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった」（機関 10-⑧）かとの質問については、肯定的な回答が62%（「強くそう思う」31%、「そう思う」31%）、「どちらとも言えない」が38%であった。しかし、「評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった」（機関 10-⑨）かとの質問については、肯定的な回答が27%（「強くそう思う」9%、「そう思う」18%）、「どちらとも言えない」73%であった。

また、評価の効果・影響について、「自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった」（機関 10-⑩）か質問したところ、肯定的な回答が62%（「強くそう思う」8%、「そう思う」54%）、「どちらとも言えない」が38%、「機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった」（機関 10-⑪）かとの質問については、肯定的な回答が61%（「強くそう思う」15%、「そう思う」46%）、「どちらとも言えない」が38%であった。

さらに、評価の作業量等について、「評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった」（機関 10-④）か質問したところ、肯定的な回答が39%（「強くそう思う」8%、「そう思う」31%）、「どちらとも言えない」が62%、「評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった」（機関 10-⑤）かとの質問については、肯定的な回答が54%（「強くそう思う」8%、「そう思う」46%）、「どちらとも言えない」が46%であった。

③ 評価と課題

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について、教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」に関しては、対象校及び評価担当者からおおむね肯定的に評価されており、効果・影響があったと考えられる。一方、教育研究活動等の「社会からの理解と支持」に関しては、対象校及び評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多くなかったが、否定的な回答は見られず、「どちらとも言えない」という回答が多く見られた。

前回の認証評価を受けた時の評価プロセスとの比較については、対象校からおおむね肯定的に評価されており、評価基準及び観点、説明会・研修会、訪問調査、評価結果（評価報告書）、評価の効果・影響等について、前回の評価と比較して適切な

ものになったと考えられる。しかし、評価に費やした作業量及び作業期間については肯定的な回答は必ずしも多いとは言えず、今後も評価の効率化に努める必要がある。また、評価結果に関するマスメディア等の報道についても、肯定的な回答は必ずしも多くなく、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

(9) 評価についての全般的な意見・感想について

(1)～(8)に挙げたもののほか、評価全般について、対象校及び評価担当者から、主に次のような意見・感想があった。

・対象校からの意見・感想について

対象校から寄せられた意見・感想においては、機構の認証評価を受けた感想として、「ほぼ期待通りであった」「指摘された事項を早急に改善できた」等、評価に対して肯定的なものが多く寄せられた。一方で、「一部の人間の活動にせず、学内の協力をいかに構築するかが重要である」「認証評価対応委員の負担軽減の意味でも各基準に対して一教員が担当するように改善すべきである」というような、より多くの教員に評価に携わってもらい、一人一人の負担を減らすべきだとの意見も寄せられた。

・評価担当者からの意見・感想について

評価担当者から寄せられた意見・感想においては、参考になった、貴重な経験ができたというものが多く、評価担当者としての経験を所属組織の運営に活かしたいとする感想がある一方で、「評価の効率化のために2年任期で半数入れ替えの部会員構成にすべきでは」とする評価の効率化を求める意見も寄せられた。

3. 総括

本報告書では、アンケート調査した項目のうち、主要な9つの事項、「(1) 評価基準及び観点について」「(2) 説明会・研修会について」「(3) 自己評価書について」「(4) 書面調査・訪問調査について」「(5) 評価結果(評価報告書)について」「(6) 評価の効果・影響について」「(7) 評価の作業量等について」「(8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について」「(9) 評価についての全般的な意見・感想について」を整理・分類し、分析・評価した結果をまとめている。以下にその概要を述べ総括する。

(1) 評価基準及び観点について

評価基準及び観点の構成や内容は、高等専門学校の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして適切なものと考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることも適切であると考えられる。

評価しにくい、内容が重複する評価基準又は観点があったかについては、おおむね肯定的な回答が得られているものの、一部の対象校及び評価担当者から評価しにくい評価基準又は観点があるとの回答も寄せられており、今後も引き続き、説明会等で対象校及び評価担当者の評価基準及び観点についての理解を深める必要があると考えられる。

(2) 説明会・研修会について

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会の実施内容、説明内容、配付資料、訪問説明や機構の事務担当者の対応等はおおむね適切であると考えられる。

また、評価担当者に対する研修の実施内容、説明内容、配付資料、自己評価書のサンプルの提示、研修時間はおおむね適切であると考えられる。

(3) 自己評価書について

自己評価書については、対象校では、評価基準及び観点に基づいた適切な自己評価により、わかりやすく完成度の高い自己評価書が作成されたとおおむね認識している。一方、自己評価書は理解しやすかったか、評価基準及び観点の内容が適切に記述されていたかについては、評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多いとは言えず、今後も引き続き、説明会等で自己評価書の書き方について対象校の理解を深めるとともに、自己評価書全体の記述内容を通読して管理監督する担当者が必要であることを強調することが求められる。なお、自己評価書の字数制限はおおむね適切なものと考えられる。このほか、自己評価書の作成に当たり、多くの対象校が

既に機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考としていることがわかる。

自己評価書の添付資料については、一部の対象校から、既に蓄積していたもので対応できなかった、どのようなものを用意すればよいか迷ったとの回答が寄せられている。また、自己評価書に必要な根拠資料が引用・添付されていたかについては、評価担当者からの肯定的な回答は必ずしも多いとは言えないため、今後も引き続き、添付資料の明確化に努め、説明会等で対象校の理解を深める工夫が必要である。さらに、評価担当者から寄せられた意見を踏まえ、平成 26 年度以降に実施される認証評価においては、参照しやすいよう、原則、資料を別冊として提出するよう対象校に呼びかけている。

(4) 書面調査・訪問調査について

書面調査による分析については、「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式はおおむね適切であると考えられる。また、客観的データ等の参考となる情報が必要との回答はあまり寄せられていないが、今後も要望を把握していく必要がある。

訪問調査については、「訪問調査時の確認事項」の内容及びそれに対する対象校からの回答内容、実施内容、人数及び構成、機構の事務担当者の対応等はおおむね適切であると考えられる。また、訪問調査によって不明な点が確認でき、機構の評価担当者と対象校との間で共通理解を得ることができていると考えられる。

(5) 評価結果（評価報告書）について

評価報告書の内容については、評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らしておおむね適切なものであるほか、その内容や構成、分量、記載方法についてもおおむね適切であり、教育研究活動等に関して新たな視点が得られるなど、総じて内容は適切なものであると考えられる。

評価報告書等の公表については、ウェブサイト等でおおむね公表されているが、マスメディア等からの報道の適切性については、対象校からの肯定的な回答は必ずしも多いとは言えず、認証評価の社会的認知度の向上については、今後、認証評価機関 12 機関により組織される認証評価機関連絡協議会を通じ、他の認証評価機関とも協力して、更に工夫を行っていく必要がある。

今回の機関別認証評価においては意見の申立てを行った対象校はなかったが、意見の申立ての実施方法やスケジュール、内容や対応の評価報告書への掲載についてはおおむね適切であると考えられる。

(6) 評価の効果・影響について

対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響については、現状や課題の把握、改善の促進、知識や技術の向上、組織的な運営や自己評価の重要性の浸透、各教員の意識の向上、マネジメントの改善や個性的な取組の促進、将来計画の策定への寄与におおむね有効であると考えられる。

対象校が評価結果を受けたことによる効果・影響については、前述の自己評価を行ったことによる効果・影響に加え、教職員への評価結果の内容の浸透、質の保証、学生や社会からの理解と支持を得ることにおおむね有効であると考えられる。また、他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にしようとすることにもおおむね効果・影響があると考えられる。

評価結果の活用については、対象校から具体的な改善取組事例が挙げられ、対象校が評価結果を基に改善・向上に取り組んでいることがわかる。今後も引き続き、機構及び対象校の相互の取組により、各対象校における評価結果の活用を促進していくことが重要であると考えられる。

(7) 評価の作業量等について

評価に費やした対象校の作業量及び作業期間については、訪問調査の事前準備及び訪問調査当日の対応に係る作業量及び作業期間、並びに、「訪問調査時の確認事項」への対応に係る作業期間は、おおむね適切であると考えられる。また、意見の申立てについては、負担を感じていない対象校が半数程度あったが、自己評価書の作成及び「訪問調査時の確認事項」への対応に係る作業量については、大きいとの回答が寄せられている。一方、対象校が評価に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らしておおむね見合うものであったと評価されている。これらのことから、対象校は、評価に費やす作業に対して負担を感じているものの、評価に費やす労力は、評価の目的におおむね見合うと考えていることがわかる。今後も引き続き、説明会等で対象校の理解を深めるとともに、評価の効率化に努める必要がある。

また、評価に費やした評価担当者の作業量及び作業期間については、訪問調査及び評価結果（原案）の作成に係る作業量及び作業期間は適切であると考えられるが、自己評価書の書面調査については、作業量が多く、作業期間は短いとの回答が寄せられている。一方、評価担当者が評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らしておおむね見合うものであったと評価されている。これらのことから、評価担当者は、評価に費やす作業に対して負担を感じているものの、評価に費やす労力は、評価の目的に照らしておおむね見合うと考えていることがわかる。今後も引き続き、説明会等で対象校の自己評価書への理解を深めることにより、評価担当者の負担軽減を図る必要がある。

評価のスケジュールについては、自己評価書の提出時期及び訪問調査の実施時期は適切であると考えられる。

(8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響については、教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」にはおおむね効果・影響があったと考えられる。一方、「社会からの理解と支持」に効果・影響があったかについては、「どちらとも言えない」とする回答が多く見られた。

また、前回の認証評価と比較して、評価基準及び観点、説明会・研修会、訪問調査、評価結果（評価報告書）、評価の効果・影響等については、おおむね適切なものになったと考えられる。しかし、評価の作業量等や評価結果に関するマスメディア等の報道については、肯定的な回答は必ずしも多いとは言えず、評価の効率化や認証評価の社会的認知度の向上については、今後、更に工夫を行っていく必要がある。

(9) 評価についての全般的な意見・感想について

評価についての全般的な意見・感想については、対象校からは、機構の評価を受けた感想として、期待どおりであったとする感想が寄せられた一方で、より多くの教員に評価に携わることを望む意見等も寄せられた。

また、評価担当者からは、今回の評価により貴重な経験ができ、所属組織の運営に活かしたいとする感想があったほか、評価の効率化を求める意見等も寄せられた。

今回の検証によって、前回の認証評価を受けた時と比較した評価プロセスについて対象校から肯定的に評価されていることから、これまでの検証を活かした改善が評価されていることがわかった。しかしながら、一方で、対象校、評価担当者双方から機構の行う現行の認証評価に対する意見・要望も見られたことから、更なる改善の必要性も示唆された。

認証評価の改善については、対象校が評価の経験を重ねることにより、自己評価書作成等の効率化が図られることが期待されるが、機構においても、寄せられた意見等を踏まえて、引き続き、認証評価の趣旨の更なる周知や実施方法等に関する合理化、効率化の取組等について検討していくことが必要であると考えられる。

参 考 资 料

参考資料 目次

- 1 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【対象校】
- 2 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（選択式回答）【評価担当者】
- 3 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
- 4 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
- 5 認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】（高等専門学校用）
- 6 認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】（高等専門学校用）

※ なお、アンケートの自由記述については、原則、原文をそのまま掲載した。（ただし、具体の高等専門学校や個人等が特定されるものについては、特定できないような表現に改めた上で掲載した。）

平成24年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式)【対象校】
【高等専門学校】

1. 評価基準及び観点について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関1-① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	5	9	0	0	0	14	4.36	0
	36%	64%	0%	0%	0%	100%		
機関1-② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	7	7	0	0	0	14	4.50	0
	50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関1-③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	4	8	2	0	0	14	4.14	0
	29%	57%	14%	0%	0%	100%		
機関1-④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	7	7	0	0	0	14	4.50	0
	50%	50%	0%	0%	0%	100%		

【2:ある 1:ない】

	2	1	計	平均	未回答
機関1-⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった	3	11	14	1.21	0
	21%	79%	100%		
機関1-⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	1	13	14	1.07	0
	7%	93%	100%		

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	3	9	2	0	0	14	4.07	0
	21%	64%	14%	0%	0%	100%		
機関2-(1)-② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた	1	5	5	3	0	14	3.29	0
	7%	36%	36%	21%	0%	100%		

【2:迷った 1:迷っていない】

	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	6	8	14	1.43	0
	43%	57%	100%		

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-④ 対象校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた	3	8	3	0	0	14	4.00	0
	21%	57%	21%	0%	0%	100%		
機関2-(1)-⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった	1	11	1	1	0	14	3.86	0
	7%	79%	7%	7%	0%	100%		
機関2-(1)-⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	3	4	3	4	0	14	3.43	0
	21%	29%	21%	29%	0%	100%		

【2:参考にした 1:参考にしなかった】

	2	1	計	平均	未回答
機関2-(1)-⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした	9	5	14	1.64	0
	64%	36%	100%		

(2) 訪問調査等について

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

	5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(2)-① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	3	11	0	0	0	14	4.21	0
	21%	79%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	5	9	0	0	0	14	4.36	0
	36%	64%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-③ 訪問調査時に機構の評価担当者(事務担当者を除く。以下同様。)が質問した内容は適切であった	5	9	0	0	0	14	4.36	0
	36%	64%	0%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-④ 訪問調査の実施内容として、大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	8	4	1	1	0	14	4.36	0
	57%	29%	7%	7%	0%	100%		
機関2-(2)-⑤ 訪問調査の実施内容(大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった	4	9	1	0	0	14	4.21	0
	29%	64%	7%	0%	0%	100%		
機関2-(2)-⑥ 訪問調査の実施内容(大学関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった	3	9	1	1	0	14	4.00	0
	21%	64%	7%	7%	0%	100%		
機関2-(2)-⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	5	8	1	0	0	14	4.29	0
	36%	57%	7%	0%	0%	100%		

機関2-(2)	⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	4	9	1	0	0	14	4.21	0
		29%	64%	7%	0%	0%	100%		
機関2-(2)	⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		

(3)意見の申立てについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関2-(3)	① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	8	3	3	0	0	14	4.36	0
		57%	21%	21%	0%	0%	100%		
機関2-(3)	② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった	6	4	2	0	0	12	4.33	0
		50%	33%	17%	0%	0%	100%		
機関2-(3)	③ 対象校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった	0	0	0	0	0	0	-	0
		-	-	-	-	-	-		

3. 評価の作業量、スケジュール等について

(1)評価に費やした作業量について

【5:とても大きい～3:適当～1:とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(1)	① 自己評価書の作成	6	8	0	0	0	14	4.43	0
		43%	57%	0%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	3	9	2	0	0	14	4.07	0
		21%	64%	14%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	③ 訪問調査のための事前準備	1	6	7	0	0	14	3.57	0
		7%	43%	50%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	④ 訪問調査当日の対応	1	4	9	0	0	14	3.43	0
		7%	29%	64%	0%	0%	100%		
機関3-(1)	⑤ 意見の申立て	0	0	4	2	3	9	2.11	0
		0%	0%	44%	22%	33%	100%		

(2)機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

【5:とても長い～3:適当～1:とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(2)	① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	1	0	7	5	1	14	2.64	0
		7%	0%	50%	36%	7%	100%		
機関3-(2)	② 訪問調査のための事前準備	0	2	10	2	0	14	3.00	0
		0%	14%	71%	14%	0%	100%		
機関3-(2)	③ 訪問調査当日の対応	0	2	12	0	0	14	3.14	0
		0%	14%	86%	0%	0%	100%		
機関3-(2)	④ 意見の申立て	0	0	8	0	1	9	2.78	0
		0%	0%	89%	0%	11%	100%		

(3)評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5:強く思う～3:どちらとも言えない～1:全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関3-(3)	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	2	9	3	0	0	14	3.93	0
		14%	64%	21%	0%	0%	100%		
機関3-(3)	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を進めるといいう目的に見合うものであった	1	9	4	0	0	14	3.79	0
		7%	64%	29%	0%	0%	100%		
機関3-(3)	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといいう目的に見合うものであった	2	8	2	2	0	14	3.71	0
		14%	57%	14%	14%	0%	100%		

(4)評価のスケジュールについて

【2:適当 1:適当でない】

		2	1	計	平均	未回答
機関3-(4)	① 自己評価書の提出時期(6月末)は適当であった	13	1	14	1.93	0
		93%	7%	100%		
機関3-(4)	② 訪問調査の実施時期(10月上旬～12月中旬)は適当であった	12	2	14	1.86	0
		86%	14%	100%		

4. 説明会・研修会等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関4-	① 説明会の配付資料は理解しやすかった	7	6	0	1	0	14	4.36	0
		50%	43%	0%	7%	0%	100%		
機関4-	② 説明会の内容は理解しやすかった	7	6	0	1	0	14	4.36	0
		50%	43%	0%	7%	0%	100%		
機関4-	③ 説明会の内容は役立つ	8	4	2	0	0	14	4.43	0
		57%	29%	14%	0%	0%	100%		
機関4-	④ 自己評価担当者等に対する研修会の配布資料は理解しやすかった	8	5	0	1	0	14	4.43	0
		57%	36%	0%	7%	0%	100%		
機関4-	⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	7	6	0	1	0	14	4.36	0
		50%	43%	0%	7%	0%	100%		
機関4-	⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立つ	8	3	3	0	0	14	4.36	0
		57%	21%	21%	0%	0%	100%		
機関4-	⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立つ	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		
機関4-	⑧ 機構が行った訪問説明は役立つ	3	3	0	0	0	6	4.50	0
		50%	50%	0%	0%	0%	100%		
機関4-	⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった	6	4	3	0	0	13	4.23	1
		46%	31%	23%	0%	0%	100%		

5. 評価結果(評価報告書)について

(1) 評価報告書の内容等について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5-(1)-	① 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	6	8	0	0	0	14	4.43	0
		43%	57%	0%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	② 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	5	7	2	0	0	14	4.21	0
		36%	50%	14%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	③ 評価報告書の内容は、対象校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得られることを支援・促進するものであった	4	7	3	0	0	14	4.07	0
		29%	50%	21%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	④ 評価報告書の内容は、対象校の目的に照らし適切なものであった	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑤ 評価報告書の内容は、対象校の実態に即したものであった	6	8	0	0	0	14	4.43	0
		43%	57%	0%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑥ 評価報告書の内容は、対象校の規模等(資源・制度など)を考慮したものであった	6	6	2	0	0	14	4.29	0
		43%	43%	14%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	2	9	3	0	0	14	3.93	0
		14%	64%	21%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		
機関5-(1)-	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	8	6	0	0	0	14	4.57	0
		57%	43%	0%	0%	0%	100%		

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

【2: している 1: していない】

		2	1	計	平均	未回答
機関5-(2)-	① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している	10	4	14	1.71	0
		71%	29%	100%		
機関5-(2)-	② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している	11	3	14	1.79	0
		79%	21%	100%		

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関5-(3)-	① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた	0	4	5	0	0	9	3.44	5
		0%	44%	56%	0%	0%	100%		

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(1)	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができた	6	7	1	0	0	14	4.36	0
		43%	50%	7%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	5	8	1	0	0	14	4.29	0
		36%	57%	7%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	2	8	3	1	0	14	3.79	0
		14%	57%	21%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	0	8	5	0	1	14	3.43	0
		0%	57%	36%	0%	7%	100%		
機関6-(1)	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進した	3	10	0	1	0	14	4.07	0
		21%	71%	0%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立った	2	7	4	1	0	14	3.71	0
		14%	50%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進した	1	9	4	0	0	14	3.79	0
		7%	64%	29%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑧ 対象校の個性的な取組を促進した	4	6	4	0	0	14	4.00	0
		29%	43%	29%	0%	0%	100%		
機関6-(1)	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	2	7	4	1	0	14	3.71	0
		14%	50%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(1)	⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	2	9	2	1	0	14	3.86	0
		14%	64%	14%	7%	0%	100%		

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関6-(2)	① 対象校の教育研究活動等について全般的に把握することができる	5	9	0	0	0	14	4.36	0
		36%	64%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	② 対象校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	4	10	0	0	0	14	4.29	0
		29%	71%	0%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	1	11	1	1	0	14	3.86	0
		7%	79%	7%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	1	8	4	1	0	14	3.64	0
		7%	57%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑤ 対象校の教育研究活動等の改善を促進する	0	12	1	1	0	14	3.79	0
		0%	86%	7%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑥ 対象校の将来計画の策定に役立つ	3	6	4	1	0	14	3.79	0
		21%	43%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑦ 対象校のマネジメントの改善を促進する	2	8	4	0	0	14	3.86	0
		14%	57%	29%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑧ 対象校の個性的な取組を促進する	2	8	4	0	0	14	3.86	0
		14%	57%	29%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	1	10	2	1	0	14	3.79	0
		7%	71%	14%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する	2	7	4	1	0	14	3.71	0
		14%	50%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	1	8	4	1	0	14	3.64	0
		7%	57%	29%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑫ 対象校の教育研究活動等の質が保証される	3	9	2	0	0	14	4.07	0
		21%	64%	14%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑬ 学生(今後入学する学生を含む)の理解と支持が得られる	1	7	5	1	0	14	3.57	0
		7%	50%	36%	7%	0%	100%		
機関6-(2)	⑭ 広く社会の理解と支持が得られる	3	7	4	0	0	14	3.93	0
		21%	50%	29%	0%	0%	100%		
機関6-(2)	⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする	0	11	3	0	0	14	3.79	0
		0%	79%	21%	0%	0%	100%		

7. 評価結果の活用について

(1) 今回の評価(機構の評価結果だけでなく、対象校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。)を契機として課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項(または実施済みの事項)について

(省略)

(2) 今後、次のような事柄に評価報告書を用いる予定について(複数回答可)

- 1 対象校の広報誌に評価結果を掲載する。
- 2 対象校のウェブサイトで評価結果を公表する。
- 3 資金獲得のための申請書に記載する。
- 4 学生募集の際に用いる。
- 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。
- 6 その他(具体的に)

1	2	3	4	5
11	12	1	7	1

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関9-	① 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	1	7	5	0	0	13	3.69	0
		8%	54%	38%	0%	0%	100%		
機関9-	② 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	1	10	2	0	0	13	3.92	0
		8%	77%	15%	0%	0%	100%		
機関9-	③ 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	0	3	9	0	0	12	3.25	1
		0%	25%	75%	0%	0%	100%		

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

【5: 非常に良くなっている～3: どちらとも言えない～1: 非常に悪くなっている】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
機関10-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった	3	7	3	0	0	13	4.00	0
		23%	54%	23%	0%	0%	100%		
機関10-	② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった	1	10	2	0	0	13	3.92	0
		8%	77%	15%	0%	0%	100%		
機関10-	③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった	3	8	2	0	0	13	4.08	0
		23%	62%	15%	0%	0%	100%		
機関10-	④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった	1	4	8	0	0	13	3.46	0
		8%	31%	62%	0%	0%	100%		
機関10-	⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった	1	6	6	0	0	13	3.62	0
		8%	46%	46%	0%	0%	100%		
機関10-	⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった	5	4	3	0	0	12	4.17	1
		42%	33%	25%	0%	0%	100%		
機関10-	⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった	2	9	2	0	0	13	4.00	0
		15%	69%	15%	0%	0%	100%		
機関10-	⑧ 対象校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった	4	4	5	0	0	13	3.92	0
		31%	31%	38%	0%	0%	100%		
機関10-	⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった	1	2	8	0	0	11	3.36	2
		9%	18%	73%	0%	0%	100%		
機関10-	⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった	1	7	5	0	0	13	3.69	0
		8%	54%	38%	0%	0%	100%		
機関10-	⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	2	6	5	0	0	13	3.77	0
		15%	46%	38%	0%	0%	100%		

平成24年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式)【評価担当者】

【高等専門学校】

1. 評価基準及び観点について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評1-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった	4	14	0	0	0	18	4.22	0
		22%	78%	0%	0%	0%	100%		
評1-	② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	6	12	0	0	0	18	4.33	0
		33%	67%	0%	0%	0%	100%		
評1-	③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	4	14	0	0	0	18	4.22	0
		22%	78%	0%	0%	0%	100%		
評1-	④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった	8	8	1	0	0	17	4.41	1
		47%	47%	6%	0%	0%	100%		

【2: ある 1: ない】

		2	1	計	平均	未回答
評1-	⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	5	13	18	1.28	0
		28%	72%	100%		
評1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	4	14	18	1.22	0
		22%	78%	100%		

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(1)-	① 対象校の自己評価書は理解しやすかった	0	7	9	2	0	18	3.28	0
		0%	39%	50%	11%	0%	100%		
評2-(1)-	② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	0	7	10	1	0	18	3.33	0
		0%	39%	56%	6%	0%	100%		
評2-(1)-	③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	0	7	9	2	0	18	3.28	0
		0%	39%	50%	11%	0%	100%		

(2) 書面調査について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(2)-	① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	1	12	4	1	0	18	3.72	0
		6%	67%	22%	6%	0%	100%		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	0	1	11	4	2	18	2.61	0
		0%	6%	61%	22%	11%	100%		

(3) 訪問調査について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(3)-	① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	1	15	0	1	0	17	3.94	0
		6%	88%	0%	6%	0%	100%		
評2-(3)-	② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	4	13	0	0	0	17	4.24	0
		24%	76%	0%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった	12	4	0	0	0	16	4.75	0
		75%	25%	0%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	④ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)の方法は適切であった	7	9	0	0	0	16	4.44	0
		44%	56%	0%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑤ 訪問調査の実施内容(高等専門学校関係者(責任者)面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談)に係る時間配分は適切であった	4	6	4	2	0	16	3.75	0
		25%	38%	25%	13%	0%	100%		
評2-(3)-	⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	3	12	1	0	0	16	4.13	0
		19%	75%	6%	0%	0%	100%		

評2-(3)-	⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者(事務担当者を除く)の人数や構成は適切であった	7	8	1	0	0	16	4.38	0
		44%	50%	6%	0%	0%	100%		
評2-(3)-	⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった	13	3	0	0	0	16	4.81	0
		81%	19%	0%	0%	0%	100%		

(4) 評価結果について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評2-(4)-	① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	6	11	0	1	0	18	4.22	0
		33%	61%	0%	6%	0%	100%		
評2-(4)-	② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	4	10	4	0	0	18	4	0
		22%	56%	22%	0%	0%	100%		
評2-(4)-	③ 評価結果全体としての分量は適切であった	2	8	6	1	0	17	3.65	1
		12%	47%	35%	6%	0%	100%		
評2-(4)-	④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	6	8	3	1	0	18	4.06	0
		33%	44%	17%	6%	0%	100%		

3. 研修について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評3-	① 研修の配付資料は理解しやすかった	5	9	2	1	0	17	4.06	0
		29%	53%	12%	6%	0%	100%		
評3-	② 研修の説明内容は理解しやすかった	6	9	1	1	0	17	4.18	0
		35%	53%	6%	6%	0%	100%		
評3-	③ 研修の内容は役立った	7	9	1	0	0	17	4.35	0
		41%	53%	6%	0%	0%	100%		
評3-	④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った	4	9	3	1	0	17	3.94	0
		24%	53%	18%	6%	0%	100%		
評3-	⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	3	9	4	1	0	17	3.82	0
		18%	53%	24%	6%	0%	100%		

4. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

【5: とても大きい～3: 適当～1: とても小さい】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査	5	10	3	0	0	18	4.11	0
		28%	56%	17%	0%	0%	100%		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加	0	2	13	1	0	16	3.06	0
		0%	13%	81%	6%	0%	100%		
評4-(1)-	③ 評価結果(原案)の作成	0	3	15	0	0	18	3.17	0
		0%	17%	83%	0%	0%	100%		

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

【5: とても長い～3: 適当～1: とても短い】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(2)-	① 自己評価書の書面調査	0	0	8	8	1	17	2.41	1
		0%	0%	47%	47%	6%	100%		
評4-(2)-	② 訪問調査への参加	0	0	13	1	1	15	2.8	1
		0%	0%	87%	7%	7%	100%		
評4-(2)-	③ 評価結果(原案)の作成	0	0	17	0	0	17	3	1
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評4-(3)-	① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった	4	9	4	0	0	17	4	1
		24%	53%	24%	0%	0%	100%		
評4-(3)-	② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった	4	8	5	0	0	17	3.94	1
		24%	47%	29%	0%	0%	100%		

評4-(3)-	③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといふ目的に見合うものであった	2	8	6	1	0	17	3.65	1
		12%	47%	35%	6%	0%	100%		

(4) 評価作業にかかった時間数について

		計	平均	1校当たりの平均	未回答
評4-(4)-	① 自己評価書の書面調査	16	40.1 時間	16.0 時間/1校	2
評4-(3)-	② 訪問調査の準備	15	15.1 時間	5.4 時間/1校	1
評4-(3)-	③ 評価結果(原案)の作成	16	17.3 時間	6.9 時間/1校	2

5. 評価部会等の運営について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評5-	① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	2	13	3	0	0	18	3.94	0
		11%	72%	17%	0%	0%	100%		
評5-	② 部会運営は円滑であった	5	13	0	0	0	18	4.28	0
		28%	72%	0%	0%	0%	100%		

6. 評価全般について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評6-	① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う	3	14	1	0	0	18	4.11	0
		17%	78%	6%	0%	0%	100%		
評6-	② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う	3	13	2	0	0	18	4.06	0
		17%	72%	11%	0%	0%	100%		
評6-	③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う	1	11	5	1	0	18	3.67	0
		6%	61%	28%	6%	0%	100%		
評6-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	2	13	3	0	0	18	3.94	0
		11%	72%	17%	0%	0%	100%		
評6-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	8	5	3	0	0	16	4.31	0
		50%	31%	19%	0%	0%	100%		
評6-	⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	11	7	0	0	0	18	4.61	0
		61%	39%	0%	0%	0%	100%		

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

【5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない】

		5	4	3	2	1	計	平均	未回答
評7-	① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	1	6	7	0	0	14	3.57	3
		7%	43%	50%	0%	0%	100%		
評7-	② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	0	9	6	0	0	15	3.6	2
		0%	60%	40%	0%	0%	100%		
評7-	③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	0	3	11	0	0	14	3.21	3
		0%	21%	79%	0%	0%	100%		

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【対象校】
（高等専門学校）

1. 評価基準及び観点について

⑤自己評価しにくかった評価基準又は観点について

（基準3）「教員及び教育支援者等」

- ・ 基準3-1-④「教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか」が評価しにくいところであった。

（基準4）「学生の受入」

- ・ 観点4-2-① アドミッションポリシーに沿った入学者選抜方法について：学力選抜試験では、全国共通の問題を用いており、出題方針等説明が困難なものがある。

（基準10）「財務」

- ・ 基準10に関しては自己評価しにくかった。
本校は公立大学法人に属する高等専門学校であり、財務に関しては法人として管理運営を行っている。その中で、本校部分だけを自己評価するのは困難であった。

⑥重複していると思われる評価基準又は観点について

（その他）

- ・ 基準9と基準11において、自己点検・評価に関する内容が重複しており、自己評価書を作成する上で、区別しにくい部分があった。
- ・ 重複はしていないが、関連する項目は幾つかあった。その結果複数の観点の評価で同じ指摘をいただいた。

○評価基準及び観点についての意見、感想など

- ・ 国立高等専門学校は設置基準で定められていると同時に、独立行政法人国立高等専門学校機構として機構本部の統括の下にある。このため、各高等専門学校の教育研究活動においては、学校裁量の届く部分と届かない部分が存在する。すなわち、国立高等専門学校においては、個々の学校の認証評価にとどまらず、機構本部の統括体制をも対象としなければならないと考える。特に、基準8、10、11は学校として改善できる部分と機構本部の指導・支援を仰がなければ達成できない部分がある。

これを考慮した基準・観点の見直しあるいは評価体制の検討をお願いしたい。

- ・ 評価書作成（書式）において、重複する内容はまとめて一括作成し、例えば「～参照」というような形式で、評価書作成の効率にも配慮したものになると大変有難い。
- ・ 学校の特徴や教育研究の質の維持・向上を評価することの観点から、全体的には適切な評価基準

【対象校】

及び観点事項であったと思われる。

- ・ 自己評価の基準及び観点は、機関別認証評価の目的を達成するために相応しい内容だったと思います。
- ・ 長期的教育の趨勢及び公的教育方針に照らし合わせて、私学として期待される事項があれば、参考事項として提示していただければ将来計画の立案に参考となる。

2. 評価の方法及び内容について

(1) 自己評価について

③自己評価書に添付する資料で迷った点について

- ・ 評価基準に基づく、本校の教育研究等の特徴を強調できる資料の選択が、文字数の制限もあり特に困難な作業であった。最低限用意すべき具体的な必須資料一覧のようなものがあると大変有難い。
- ・ 観点3-1-①、②、③において、学習・教育目標ごとの授業担当者の配置状況に係る資料の作成。
- ・ 観点6-1-①において、専攻科修了認定による目標達成状況の把握に係る資料の作成。
- ・ 本校の教育研究活動の状況を説明するための自己評価書の記載事項を十分にサポートする資料を収集・選択するのにかなりの時間を要した。また、基準によっては新たな資料を作成するためにかなりの時間を要した。
- ・ 基準・観点・留意点をすべて満たすためには、どのような資料を添付すればよいか。
- ・ 資料の詳細のレベル。

⑥自己評価書の文字数制限に関し、必要と思われる文字数について

- ・ 2、3割増しの字数制限がほしい。
(理由) 自己評価書により学校の状況を網羅的に記述しようとする、どうしても字数が不足する。公表されることを考えると、全てを書きだしてその時点での学校の記録としたいため、「厳選して記述」よりは「網羅的に記述」となってしまう。
- ・ 全体の文字数制限については、特に問題はないが、基準当たりの文字数の目安を設けられると判断が難しい。本校では、目安の2割増までを想定したが、基準5は観点も多く、想定した文字数では十分に説明することができなかった。審査員からは、わかりにくかったとの指摘を受けた。
- ・ 全ての基準が同一の文字数制限では、書ききれない。特に基準5は10,000～15,000字程度は必要と思われる。
- ・ 前回の審査で改善指摘のあった基準や観点についてのみは、文字数の制限を緩和するなど一案と思われる。
- ・ 基準により異なるが、全体的に制限される文字数が少なく感じた。規定された文字数より10～20%増の制限が必要と思われる。

○自己評価についての意見、感想など

- ・ 外部で定められた評価基準に従って本校の活動を記述することは、本校の現況を見直す良い機会であった。普段、執行部に見えていない活動が見えてきたり、規則として定めているものにも何らかの瑕疵が見えたり、と言う形で学校の改善に資する作業であった。
- ・ 高等教育機関側からすると自己評価は、地域社会への情報発信を意識する機会ともなり、大きな利点がある。ただし、全教職員挙げての取組の自己評価を日常的に継続するためには、通常の教育・研究・地域貢献等の業務に支障なく、さらに、特定の部署に過度な負担がかからないようにしたい。入試業務に代表されるように数年単位で一回のP D C Aサイクルが回ることもあり、自己評価の間隔は項目ごとに変えても良いのではないかと思われる。
- ・ 自己評価書の記載事項を十分にサポートするための資料の収集、選択、新たな資料の作成にかなりの時間を要したが、これらの作業を通じて、本校の教育研究活動の現状に関し新たな認識も生まれた。担当者の負担は大きかったが、価値のある作業であった。

(2) 訪問調査等について

④訪問調査の実施内容として、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかについて

- ・ 近隣にいる卒業生が少ないため人選に苦慮した。休暇をとり、参加してくれた卒業生もいた。卒業生の調査は面談だけでなく書類による調査なども検討していただきたい。

⑥訪問調査の実施内容として、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかについて

- ・ 現役学生・卒業生との面談が 18:00～19:30 だったため夕食の対応が困難だった。

○訪問調査等についての意見、感想など

- ・ 一泊二日は、いかにも短い。経費の問題はあろうが、訪問調査は高等専門学校の認証評価において重要な要素だと考えられ、充実すべきだと強く進言したい。
- ・ 面談者の選出において
 - ①卒業（修了）生の依頼では、所属企業の上司や大学の指導教員への依頼書等の提出を求めるところがあり、手続きに時間がかかる。面談者選出時の条件を早い時期に通知してほしい。
 - ②面談者の人数制限と求める条件から、特に一般教員の選出は難しかった。
- ・ 「訪問調査時の確認事項」の一部（観点 2 - 2 - ②）において、追加情報を求められたが、その目的が明確でない。
- ・ 各種エビデンスの確認、施設・設備の状況調査のみならず学校関係者等との面談など、訪問調査等を適切に実施していただき、それらを通して教職員が自校の特徴を再認識することができた。厚く御礼申し上げます。
- ・ 評価担当の先生達は、自己評価書を十分に読み込み、適切な質問をされていた。本校の評価担当者との議論を通じて本校の教育研究活動の状況について十分な共通理解を得ることができた。

3. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

○評価に費やした作業量についての意見、感想など

(具体的にどのような作業において作業量が大きかったかについて)

- ・ 今回の自己評価にあたっては、学内にWGを設置し、その委員長が全体にわたる原案を作成し、基準ごとに割り振られたサブグループはその原案に対して修正加筆するという体制を取った。基準ごとに作業量の多寡や、資料の取捨選択の難易があったが、適度な作業量(かなりの作業だが、それに見合う成果が得られた)だったと考えている。サブグループに割り振ることで、それぞれの視野が狭くなるのが懸念されたが、相互に関連を指摘し合うなど、良好な作業進行ができたと評価している。また、それぞれのサブグループの作業結果をまとめるだけでなく、WGとして全体を見直す作業を、文字数調整と並行して行ったため、内容の把握、サブグループの成果からの取捨選択の結果を全体で共有することができ、自己評価書全体を共通理解の下に置くことができた。
- ・ 添付する資料が不足していたり、集計処理が滞っていたりしたので、新たに資料を作成した。蓄積した資料の中から、目的の資料を探すのに手間取った。
- ・ 各基準、項目についての分析を行い、学内の関係する委員会等との連携を図り、さらに、校長、副校長などによる審議、検討を経て、期日までに提出することは、相当の労力を要した。
- ・ 資料の収集、作成についても相当な労力を要した。
- ・ 自己評価書作成時に添付する資料の収集、選択、新たな資料の作成にかなりの時間と労力を要した。また「書面調査による分析状況」への対応もかなりの作業量となった。
- ・ 前回の審査から修正点が大きかったため、作業に時間がかかった。
- ・ 基準・観点・留意点をすべて満たすためには、どのような資料を添付すればよいか。
- ・ 自己評価書の作成は、本校では8名の教員が担当をした。1人の教員が2項目を担当した。約半年間この評価書の作成に時間を要し、土日も学校で本作業をする時間が多く、精神的にもかなりの負担となった。本来の教育研究に影響を及ぼしかねないので、もう少し項目や字数を減らすべきだと思う。
- ・ ①(自己評価書の作成)、②(「訪問調査時の確認事項」への対応)とも基準5「教育内容及び方法」、基準6「教育の成果」について作業量が大きかった。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

○機構が設定した作業期間についての意見、感想など

(具体的にどのような作業において作業期間が長かったかについて)

- ・ 作業期間について問題は感じなかった。
- ・ 面談を行う卒業生の調整・依頼の時間が不足気味だった。
- ・ ①(「訪問調査時の確認事項」への対応)について、短時間で対応しなければならないために、作業が集中するので大変であった。審査員の状況も理解できるが、せめて1か月前の提示にしてほしい。

- ・ 「訪問調査時の確認事項」において指摘された点は、字数の制限があり自己評価書ではわかりにくくなってしまったところが多い。そのため、確認事項の説明には新たに多くの資料が必要となり、回答の作成に時間を要した。「訪問調査時の確認事項」への対応期間をもう少し長くいただけると大変有難い。
- ・ 特に、書面審査による分析状況および訪問調査時の確認事項が示されてから、回答するまでの期間が短く、授業や学校行事を行う中での作業に相当な労力を要した。
- ・ 「書面調査による分析状況」に対応するための作業期間は、作業量に対してやや少なかった。
- ・ ①（「訪問調査時の確認事項」への対応）の期間をもう少し長くして欲しい。
特に、「確認事項」の対応へのレスポンスに対する対応は前日までに行ったため、非常にタイトであった。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

○評価作業に費やした労力についての意見、感想など

- ・ 質の保証、教育研究活動の改善と言う点においては、作業量に見合う成果が得られたと考えている。社会からの理解と支持については、認証評価制度の社会的認知度と相俟って、積極的に消費的にも評価が難しい。
- ・ 評価作業を進めるのにしたがって、認証評価についての学内の意識も高まり、資料・情報提供等の協力も得られるようになり、各基準の自己評価をまとめることができた。
- ・ 評価作業に費やした労力はそれ相応のものがあつたが、自分の学校にもかかわらず知らないことが多くあることがわかり、評価者個人の勉強にもなり、有意義であつたと思う。
- ・ ②（費やした労力は「改善の促進」に見合う）に関しては、認証評価の結果を受け、それぞれのように反省し、改善を計画し実行していくかによるもので、現時点ではどちらとも言えない。今後、計画的に指摘事項を改善するとともに、優れた点をさらに優れたものと出来るよう努力を続けたい。

(4) 評価のスケジュールについて

○評価のスケジュールについての意見、感想など

- ・ 提出時期は、既に承知していることであるが、年度による校務分掌の交代から2か月しかなく、WG体制を取っていなければ間に合わなかったと思われる。せめて、7月末提出として、年度開始から3か月の時間的余裕がほしい。

訪問調査の実施時期は、11月が望ましい。本校として可能であると回答したものの、10月は後期開始直後であり、学校祭が開催されるなど、本校としては早すぎるタイミングであった。卒業生に面談依頼をするにも、大学生は後期開始直後、社会人は下半期開始直後であり、何人かに断られてしまった。

- ・ 10月1日～2日に訪問調査を実施したが、後期が開始した直後で授業視察などが十分行えなかった。

- ・ 全体を通して、ほぼ適切であったと思う。
- ・ 事前に本校の学校行事等を考慮されたスケジュールであったので問題はなかった。

4. 説明会・研修会等について

○説明会・研修会等についての意見、感想など

- ・ 本校では前記のWG長が評価部会員として参加させていただいていたこともあり、説明会、研修会の内容・資料は、単に聴講するだけではなく、WG長の意見や経験を交えて解釈することができたため、十分に理解した上で評価に臨むことができた。各種資料についても、どこに何が説明されているのかを十分に把握することができた。
- ・ 大変参考になった。プログラムでの研修内容やご配付資料等、大いに活用させていただいた。
- ・ 自己評価書作成中、貴機構の担当の方に認証評価についてのご講演をいただいた。ご講演後の懇談会にて各基準に関する質問に対し具体的にご回答いただいたことが、自己評価書の作成において非常に参考になり、感謝している。また、その際のコメントとして、「認証評価は、高等専門学校の良いところをピックアップするものだ」という、ピア・レビュー的視点が印象的であった。
- ・ 説明会、研修会への参加により、認証評価制度の詳細を理解し、さらに、評価への準備を段階的に進めることができた。
- ・ 認証評価に関する説明会・研修会は十分に理解しやすい内容だった。

5. 評価結果（評価報告書）について

(1) 評価報告書の内容等について

○評価結果（評価報告書）についての意見、感想など

- ・ 本校としては、十分に満足できる評価結果であった。自己評価の段階で弱いと自己評価していた観点についても書面調査、訪問調査において「拾って」いただいた点が多いと判断している。評価結果だけではなく、「自己評価書の自己評価」を行い、改善に役立てる所存である。

(2)、(3)の回答については、4月3日時点であり、今後本校ウェブサイトに公開し、報道機関への学校発表を行う予定である。

- ・ 評価結果は適切なものであった。今後、ご指摘いただいた事項を中心にして、本校の教育環境改善に取り組み、社会的責任を果たしていきたい。
- ・ 自己評価書の公表に関しては、今後、学内で議論し決定する。
- ・ 十分にご指導結果を感じ感謝している。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

○自己評価を行ったことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

- ・ 1回目の認証評価から7年が経過し、発散しかけていた本校の状況把握に大きく寄与したと考えている。また、自己評価の過程において、自己評価書作成担当者を中心として基準と観点を読み込み、求められているものを理解することが活発に行われたと考えている。また、自己評価全般を通して、自己評価書や評価報告書の本文には現れない状況や活動についての相互理解が深まったと考えている。
- ・ 本校の教育研究活動の特徴と卒業生・企業等からの社会的評価を、全教職員に対して改めて意識付けすることができた。
- ・ 本校の教育研究活動等について、現状を把握することができた。
- ・ 自己評価を行ったことで、評価担当者の間では、本校の教育研究活動に対する全般的な把握、課題の認識が出来たが、教職員全体に十分に浸透するには至っていない。また、認証評価の担当者間で、評価の考え方や評価方法に関する知識や技術が向上したが、教職員全体で向上しているかは不明である。しかし、個性的な取組の促進、自己評価の重要性は全教職員に浸透し、教育研究活動の改善や将来計画の策定に役立っている。
- ・ 自己評価書を執筆した教員の学校運営や教育研究活動への意識は向上したと思う。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

○機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連しての意見、感想など

- ・ 同じ基準・観点で考えているにもかかわらず、自己評価とは異なる観点があることを訪問調査で再認識できた。自己満足に終わらず、常に改善することの重要性を認識できた。
学内においては、小さな世帯で十分に交流できていると思われる学科間、教科間においても、不十分な相互理解の状況にあることを再認識できた。
- ・ 客観的な視点で本校の特徴や教育研究活動等を見直す良い機会になった。
- ・ 準学士課程の教育目標や卒業生像に関して、原点に帰って再認識するとともに、共有化できたと考える。
- ・ 評価を受け、学内の関係する委員会等に対する検討依頼や提言を行うことにより、改善に努めることができた。

7. 評価結果の活用について

①今回の評価を契機として、何らかの変更・改善を予定しているもの（又は実施済みのもの）について

○主要な変更・改善事項及び変更・改善の際の機構の評価（機構の評価報告書の内容だけでなく、対象校による自己評価書の作成や、評価の過程で得られた知見を含む）の参考度について

※参考度：【5：非常に参考になった～3：参考になった～1：あまり参考にならなかった】

（基準1）「高等専門学校の目的」

- ・【課題】 準学士課程、専攻科課程において共通の教育目標が定められ、養成しようとする人物像を含む達成しようとする基本的な成果がそれぞれの学科、専攻ごとに定められているが、目指すべき成果が学生に十分理解できるようにはなっていない。
【変更・改善】 教育目標や育成しようとする人物像などを総合的に見直す。また、学生にも理解しやすい周知方法を検討する。【5】
- ・【課題】 本校の目的は、学習・教育目標等で明らかにしているが、その達成レベルは明確でない。
【変更・改善】 カリキュラム変更を予定しており、モデルコアカリキュラムとの整合性を取りながら、達成レベルを設定する予定である。【2】
- ・【課題】 卒業時、修了時に身に付ける学力・資質・能力として定めた学習・教育目標の学生への周知については、周知を図っているものの、改善の余地がある。
【変更・改善】 学習・教育目標について、4月当初に全学生に対する説明を実施した。【5】
- ・【課題】 構内の各所に当校独自の工夫がなされた時計と一緒にした学習・教育目標の掲示等が設置されているものの、学習・教育目標の細目である達成項目については、学校の構成員の認知度は十分でない。
【変更・改善】 平成25年度より学校の構成員に対する学習・教育目標の説明の機会を増やすなど、細目の達成項目に関する認知度の向上を図っている。【5】
- ・【課題】 準学士課程における卒業時に身に付ける学力・資質・能力の学生の周知状況が十分とは言えない。
【変更・改善】 シラバスの全科目において、準学士課程の学習・教育目標を明記し、学生が確認できるようにした。【5】
- ・【課題】 準学士課程の目標や身に付けるべき事柄が不明確。
【変更・改善】 準学士課程の目標や身に付けるべき事柄を明確に設定し、ウェブサイトで公表済み。【5】
- ・【課題】 学生へのアンケート結果からみて、目的についての認知度が十分ではない。
【変更・改善】 4月に実施する履修に関するガイダンスをはじめとする各種ガイダンスにおいて改めて周知を図ることとしている。【5】

（基準2）「教育組織（実施体制）」

- ・【課題】 基準Ⅱの学校の目的を構成員へ周知しているが認知度が低い。
【変更・改善】 全学生にシラバスの説明時に教育理念・目標を関連付けて説明するように改善し

【対象校】

た。【4】

(基準4)「学生の受入」

- ・【課題】 実入学者数の改善に資する取組が行われているものの、一部の学科において、実入学者数が定員を下回る状況となっている。
【変更・改善】 平成25年度の本科入試から公立高校との完全併願制を実施し、入学者数の確保を目指している。【5】
- ・【課題】 アドミッション・ポリシーが定められ、それに適合する入学者選抜を工夫しているものの、特に準学士課程の学力選抜では、その実施方法は、アドミッション・ポリシーを十分反映したものとなっていない。また、実際にアドミッション・ポリシーに沿った学生が選抜されたかを検証し、その結果をもとに入学者選抜方法を改善する取組は十分整備されていない。
【変更・改善】 学力選抜の実施方法を検討する。アドミッション・ポリシーに沿った学生が選抜されたかの検証を教務委員会を中心に実施する。【4】
- ・【課題】 アドミッション・ポリシーの改善の必要性がある。(訪問調査時に指摘)
【変更・改善】 アドミッション・ポリシーの改訂について、学内の関係委員会において審議、検討し、平成25年4月18日の運営会議において承認された。【5】
- ・【課題】 アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかを検証する取組において、より明確に検証し、それをもとに入学者選抜に反映するシステムを構築する取組が十分ではない。
【変更・改善】 アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているかを検証する取組において、より明確に検証し、それをもとに入学者選抜に反映するシステムを構築する。
【3】
- ・【課題】 アドミッション・ポリシーに適合した入学者がされたかの状況の検証は開始されているものの、現状では検証結果を活かした入学者選抜制度の改善につながっていない。
【変更・改善】 入試検討委員会の組織変更を行い、検証及び検討する体制を強化した。検証を継続すると共に、改善に向けた検討を行うこととした。【5】

(基準5)「教育内容及び方法」

- ・【課題】 準学士課程の一部科目において、複数年度に渡り、同一の試験問題が出題されている。
【変更・改善】 指摘された科目は着任2年目教員の担当科目であり、当該教員には十分な説明とともに改善を促した。また、平成25年度には再試験科目も含めた成績資料のチェック方法の改善を予定している。【5】
- ・【課題】 準学士課程、専攻科課程とも、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、評価方法の明示等内容が適切に記載されているものの、それぞれの授業科目の達成目標に当校の目標が示されていない。

【対象校】

- 【変更・改善】 本校の教育目標を記載するようシラバスの様式を変更した。【4】
- ・【課題】 学修単位科目において、課題等の実施状況の把握や評価方法が学校として統一されていない。
- 【変更・改善】 平成25年度シラバスの一部見直しを行い、学修単位科目の記載方法を改善したが、今後も継続した改善を行う予定である。【4】
- ・【課題】 準学士課程の1年次から3年次に配置された授業科目のシラバスには、学習・教育目標との関連が明記されていない。
- 【変更・改善】 シラバスの全科目において、準学士課程の学習・教育目標を明記した。【4】
- ・【課題】 準学士課程の教育課程の体系が判りにくい。
- 【変更・改善】 わかり易く整理し、平成25年度のシラバスに反映している。【4】
- ・【課題】 基準5の低学年生の成績評価において試験問題の保管が不十分である旨の指摘を受けた。
- 【変更・改善】 平成25年度から低学年生の試験問題を全部保管するように改善した。【5】
- ・【課題】 <準学士課程>教育目標を達成する科目群の効果的な配置について、見直しの検討を進めているものの、改善の余地がある。
- 【変更・改善】 科目群の効果的な配置を行うため、国立高等専門学校機構が進めているコアカリキュラムも参考にし、来年度からカリキュラムの改善・充実を行うこととしている。
【4】
- ・【課題】 <専攻科課程>専攻科課程の教育目標を達成するための効果的な科目群の配置に関しては、改善の余地がある。
- 【変更・改善】 専攻科の学習・教育到達目標に対応する科目配置について、新たな科目を追加するなどの検討を行い、学生が学習・教育到達目標を達成できるように教育課程および専攻科の目標達成基準を改善・整備することとしている。【4】
- ・【課題】 専攻科課程のシラバスが、学修単位科目についての予習や復習の指示を明示する形にはなっていない。
- 【変更・改善】 予習や復習に関する表記についての検討を行い、平成25年度発行のものから明示するよう改善を行った。【5】
- ・【課題】 (記載なし)
- 【変更・改善】 教育の内容及び方法について、更なる充実向上を図るため、来年度からカリキュラムの整備を行う予定。【4】

(基準6)「教育の成果」

- ・【課題】 準学士課程において、卒業時に学生が身につける学力や資質・能力についての達成状況を把握・評価する基準に基づいた、具体的な達成状況の把握・評価は、十分には実施されていない。
- 【変更・改善】 平成25年度において、達成状況を把握評価する取組の見直しを予定している。【5】
- ・【課題】 学習達成度評価の結果は、各授業担当教員が把握し、授業改善に役立てているが、学校

としてこの評価結果の収集・分析等は現在行っていない。

【変更・改善】 教務委員会と授業担当教員が連携して、評価結果の分析を行う。【4】

- ・【課題】 学生が行う学習達成度評価は、実施されているものの、その分析・評価は十分とは言えず、改善の余地がある。

【変更・改善】 学内の関係委員会において、分析・評価を開始した。【5】

- ・【課題】 準学士課程の達成度アンケートが平成20年度以降実施されていない。

【変更・改善】 平成24年度より実施している。【5】

- ・【課題】 学生が行う学習達成度評価において、準学士課程、専攻科課程ともに、語学力を含むコミュニケーション能力に対して低い評価結果となっている。

【変更・改善】 語学力を含むコミュニケーション能力を向上させるために、国際交流、海外語学研修、海外インターンシップ等を推進していくこととしている。【4】

(基準9)「教育の質の向上及び改善のためのシステム」

- ・【課題】 教育評価システムサイクルの運用が十分ではない。

【変更・改善】 自己点検・評価委員会は、教育改善の機能性向上のために平成24年度、組織変更を行った。このため、まだ同委員会の実績はないが、PDCAサイクルに沿った教育改善が客観的に円滑かつ効率良く行えるようにしている。【5】

- ・【課題】 (記載なし)

【変更・改善】 PDCAサイクルの機能が一層円滑化するように、来年度から取り組む予定。【4】

- ・【課題】 効果的な自己点検・評価の実施に関しては、学校として策定した評価項目の設定について、改善の余地がある。

【変更・改善】 学校として策定した評価項目の設定のため、本校の中期計画等で設定している評価項目を取り入れることで改善を行うこととしている。【4】

(基準11)「管理運営」

- ・【課題】 自己点検・評価結果の結果は公表されているが、十分に記載されていない。

【変更・改善】 平成24年度からPDCAサイクルがわかるように、記載方法を改善した。【5】

(その他)

- ・【課題】 目的の周知状況の把握。

【変更・改善】 アンケートの実施。【3】

- ・【課題】 複数年にわたり同一問題が散見される。

【変更・改善】 検討中。【4】

8. 評価の実施体制について

○評価（自己点検・評価、認証評価等）を行うための実施体制（組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等）について

- ・ 評価対策室、認証評価対策委員会は、今回の認証評価の実施体制として時限的に設置。

○評価の実施体制について、対象校が行っている方策・工夫等、その方策・工夫等についてよかった点、悪かった点等、その他感想について

- ・ 何と言っても、評価部会員として教員を派遣し、その教員を認証評価のリーダーとするのが良いと考える。学内体制は、それぞれの高等専門学校のやり方があるのだろうが、一部の人間の活動にせず、学内の協力をいかに構築するかが重要と考える。
- ・ 以前は、自己点検・評価委員会がPDCAサイクルの中心であったが、現在は、中期計画検討委員会と自己点検・評価委員会の2つの組織を設け、PDCAサイクルの機能性を高めた。中期計画検討委員会は、学校全体の計画を立て、各部署が実施した結果を報告書として取りまとめた上で、自己点検・評価委員会に提出する。次に、自己点検・評価委員会は、その報告書を評価し、改善する必要がある場合は、中期計画検討委員会を経由して、各部署に通知している。
- ・ 学内に第三者評価対応委員会を組織し、外部機関などによる評価に対応している。
- ・ 認証評価には教職員全員が何らかの形で参加するようにしている。
- ・ 認証評価書は、認証評価対応委員会の委員が分担して執筆したが、多くの教員が認証評価を理解するためにも執筆者を増やすべきだった。また、認証評価対応委員の負荷軽減の意味でも各基準に対して1教員が担当するように改善すべきであると考え。
- ・ 1、良かった点

評価書の方針から校長主導で実施した。校務内容及び成果が直結しており、一元的な作業を実施することが出来た。

2、悪かった点

小規模校であるため、業務が重複した部門では事務処理能力が不足した。計画的な並行作業が予定されていたが、データ管理が限定された係に任されていたために、待ち時間が発生してしばしば作業の滞りが出た。

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

①教育研究活動等の質の保証に関する効果・影響について

- ・ 組織のブラッシュアップ、記録保管の重要性の認識、メディア露出頻度の増加、等々、指摘事項を中心として、意識が高まった。

また、前回の認証評価において、本校の場合は学習目標そのものを指摘事項とされたので、この点は、学内で慎重な検討がなされた。（学習目標とは何か、に始まる議論がなされた）

- ・ 本校の目的が、本科と専攻科、それぞれにおいて明確になった。しかし、一方でJABEEのP

プログラムは本科4学年から専攻科2年生であるために、J A B E Eにおける目的との整合性を測りながら、本校の目的を設定するのは大変難しく、今後、見直しを図る時に障害の一つになっている。

- ・ 学生自らの自己点検・評価として、学習ポートフォリオを導入した。
- ・ 認証評価を受審を機に、学生の成績資料を含む教育活動等の記録を明確に残さなければならないという意識の変化が一層浸透し、これにより人事異動等に伴う担当者の変更があっても教育の質の保証が従前に増してできるようになった。
- ・ 認証評価結果から、本校の目的を達成するために独自に策定した中期目標・中期計画に基づく教育研究活動等の質が保証されたと考えている。
- ・ 前回の認証評価で優れた点とされた事項を維持・発展させるとともに、英語力の向上や、エンジニアリング・デザイン能力の涵養のため新たな試みに積極的に取り組み、具体的な成果を上げることができた。
- ・ J A B E Eとは異なり、高等専門学校としての総合的な「質の保証」により留意するようになったこと。
- ・ 当初は試験答案を残す事にも抵抗感を持つ教員も見受けられたが、現状では当然のこととして受け止められるようになった。

また授業の進捗についての報告も、P D C Aの一環であることが認識されてきた。

②教育研究活動等の改善の促進に関する効果・影響について

- ・ 創造性教育の推進、コミュニケーション能力の育成等、教育面においては学習目標を意識した教育内容の変更がなされた。研究活動においては、科研費獲得件数増への取組等、研究活動の活発化がなされた。
- ・ 本校の教育研究活動等について全般的に把握することができ、組織体系の見直しや役割分担などを改善できた。
- ・ 各部署の取組が明らかになり、透明性が確保された。
- ・ P D C Aを機能を高めるために、組織の見直しを行なった。
- ・ 上記の①とも関係するが、各種エビデンスがどこの部署で管理・保管されているか明確になったことにより、改善の促進が容易に図られるようになった。
- ・ 改善すべき点として評価された事項として、「卒業時および修了時に身に付ける学力や資質・能力について、学生による直接の学習到達度を評価する取組を行っていない。」があった。その年すぐに、本科5年次の卒業と専攻科2年次修了時に、学習達成度の調査を行った。その後、2回の改定を行い、平成24年度からは、新システムで実施している。特に、専攻科修了時においては、教員との面談を行い、学生の自己評価だけでなく教員も学習達成度の確認を行っている。このように指摘された事項について改善を行う他に、多くの改善に向けての取組や教育改善システム自体を改善する取組も行われており、認証評価を受けたことにより、改善の促進に繋がっている。
- ・ 認証評価を受審するために行った自己点検・評価の結果及び認証評価の評価結果により、本校の教育研究活動等の課題を把握し、改善に繋げることができた。

- ・ 英語力の向上や、エンジニアリング・デザイン能力の涵養のため新たな試みに積極的に取り組み、具体的な成果を上げることが出来た。
- ・ 準学士課程の学習・教育目標が明確でなかった指摘を受けてすぐに対応でき、教育活動の改善につながった。
- ・ J A B E Eとは異なり、高等専門学校としての総合的な「改善の促進」により留意するようになったこと。
- ・ 成績評価を含む教育活動全般において、社会への説明責任があることの認識が深まった。

③教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に関する効果・影響について

- ・ 自己評価書及び評価報告書を本校ウェブサイトで公表しており、学生募集や産学官連携等の共同研究の推進に役立っていると考えている。
- ・ J A B E Eとは異なり、高等専門学校としての総合的な「社会からの理解と支持」により留意するようになったこと。

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

○質問の項目以外に良くなっていると思う事項について

- ・ 前回はJ A B E Eも含めて初めての受審であったため、学校のシステムや受審作業の不備などもあり、審査側と受審側が共同で教育を改善するという実感がほとんど無かったが、今回は学校が改善されたこともあり、審査側の「良い点を伸ばそう」という姿勢が感じ取れ、認証評価本来の目的に近づいてきていることを実感できた。

審査に当たられた審査員の方の努力にも感謝したい。

11. その他

○実際に評価を受けて期待どおりだったかについて

- ・ ほぼ期待（予想）どおりの評価であった。
- ・ 本校の特色ある取組を自己評価書からだけでなく、訪問調査でも広く調査していただき、たくさんの特長を優れた点として評価していただいた。
- ・ 日頃、当然のようにして取組んでいる事項が、客観的に優れている点として評価された反面、本校が誇れると思っていた事項があまり評価されなかった部分もあるが、総じて、評価はほぼ期待どおりであった。
- ・ 本校の教育研究、管理運営の改善に継続することができ、効果があった。
- ・ 自己評価書に記述した【優れた点】の取組を含む数多くの取組が優れていると評価された。一方、自己評価書に記述した【基準4】の【改善を要する点】のみが指摘され、期待以上の高評価であった。

- ・ 良い点を積極的に評価いただいた。また指摘された事項は尤もなことであり、早急に改善することができた。期待どおりもしくは以上であったと考える。
- ・ ほぼ想定していたような評価となった。
- ・ ほぼ期待どおりの評価結果であった。
- ・ 全体的にほぼ期待どおりであった。
- ・ 期待どおりであった。

○その他、当機構の行う評価についての意見等

- ・ 審査員の方は、時には学校に苦言を呈することもあると考えるが、苦言を呈される側が、その苦言を素直に受け入れられるような資質、経験、年齢の方を審査員に選んでいただけると、審査がよりスムーズに行くと考えている。
その意味で今回の派遣いただいた審査員の方々は適任者ばかりであったと考える。
- ・ 前回、優れた点として挙げられた事項は、次回の審査で優れた点として挙げられないという理由が不明。優れているのなら何回でも優れているとして挙げた方が良いのではないか。
- ・ 前回の評価に比べて訪問調査の日数・内容の見直しが行われている点はよかった。

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果（自由記述）【評価担当者】
（高等専門学校）

1. 評価基準及び観点について

⑤評価しにくい評価基準又は観点について

（基準3）「教員及び教育支援者等」

- ・ 3-1-④、3-2-②

（基準4）「学生の受入」

- ・ 4-2-② 等

（基準5）「教育内容及び方法」

- ・ 5-2-③、5-6-③創造性を育む教育
創造性の定義があいまいなので評価しにくい。きちんと創造性を定義し、自己評価させても良いのではないか。
5-3-①、5-7-①豊かな人間性
上記同様に、定義があいまいである。定義があいまいなものは評価しにくい。
- ・ 5-3-①教育課程の編成が豊かな人間性の涵養が図られるように配慮されているか。

（基準10）「財務」

- ・ 10-2-③については、「適切な資源配分」の判断に困難を伴う。

（その他）

- ・ 具体的ではないが、趣旨が伝わりにくい観点があったと思う。例えば、社会貢献の指し示す範囲は高等専門学校によって認識が大きく異なる例が見られた。

⑥内容が重複する評価基準又は観点について

（その他）

- ・ 明示的に重複する項目はないが、同じ活動を教育として説明する場合と研究として説明する場合があり、高等専門学校側で執筆担当者が異なる場合には記述に若干の不整合が発生した。
- ・ 9-1-②と11-2（11-2-①、11-2-②）
自己点検・自己評価について、教育の状況と総合的な活動状況に分けているが、総合的な活動の中に教育状況の点検も含まれるので、まとめてもいいように思う。
- ・ 基準3と基準9との教育の質の向上という観点で、教員および支援者の配置、教育の状況などで類似性があるように感じます。
- ・ 3-2-①と11-1-①、双方とも校長のリーダーシップが問題にされているように思われます。
7-1-④と7-2-②、特別支援が一体的になされている場合が多く、その場合重複するように

【評価担当者】

思います。

○評価基準及び観点についての意見、感想など

- ・ 評価が教育活動に傾いており、研究活動への評価が薄い感じがする。高等教育機関であるかぎり、両面での評価が必要である気がする。
- ・ 定義があいまいなものは評価しにくい。基準内で定義しておくか、対象校に定義の明確化を指示したほうが良いのではないだろうか。
- ・ 学校全般の活動評価となるよう、評価基準・観点は全体をカバーした設定になっていると思う。
- ・ 5-1-②で、1) 多様なニーズ、2) 学術の発展の動向、3) 社会からの要請 の3項目各々に関する説明が不十分な傾向があった。受審側として、何を具体例としてあげて説明すればよいか、把握不足のようであった。
- ・ 危機管理にかかわる体制については11-1-②に言及されていますが、安全管理にかかわる体制について、今回のようなことが生じないようにするための観点が必要か、議論がいるように思います。
- ・ 5-3-①は、対象校のオリジナリティ（校風）を記述する点では大いに重要な観点と考えるが、その評価をどのようにするかは難しい問題と思われる。
- ・ 評価基準及び観定の全体像を把握できるような資料があれば作業がし易かったと思います。

2. 評価の方法及び内容・結果について

(1) 自己評価書について

①対象校の自己評価書の理解しにくかった点について

- ・ (1) 一部の基準および観定の主旨を十分理解されないで自己評価書を作成されたため、評価するに十分な説明がなされていなかった。
 - (2) 各基準や観点を満足しているかの分析は評価対象校が示すべきものであるが、その根拠が十分に示されていなかった。
- ・ 一つの学校の評価書であるのに、基準によって解釈の異なる（記載担当者間での統一がとられているとは思えない）記述があった。
 - 資料を見ればわかるというような記述があった。
 - 質問の意味を理解しているとは思えない記述があった。
- ・ 理解しやすいところとちょっとたいへんところが混在していました。添付資料にあって説明の記述が少ないのは、読むのが大変です。

③どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかについて

- ・ 例えば、インターンシップ先一覧表。
- ・ 少数派ではあるが、質問の趣旨ないし内容を理解していないケースが見受けられた。この場合、

【評価担当者】

特定の質問に対する根拠資料というより、全般的に資料不足の状況が見受けられる。

○自己評価書の様式についての意見、感想など

- ・ 特に問題というわけではありませんが、矛盾が生じていますので指摘しておきます。

自己評価実施要項(平成 25 年度実施分の場合 p.17)の記述で

IV 自己評価書の提出方法

1 提出方法 (2) 自己評価書の電子媒体 1 部

- ② 電子媒体で提出する自己評価書については、次の点に注意してください。

- ・ 外字は使用しないでください。

- ・ 漢字コードは、原則として JIS 第 1、第 2 水準の範囲で使用してください。また、機種に依存する文字は、できる限り使用しないでください。

(例) 単位記号、省略文字等

で、「機種に依存する文字は、できる限り使用しないでください。」とあります。

しかし、貴機構の示す各観点で、「①、②・・・」という○に数字の機種依存文字(現在は、JIS に含まれていますが、文字化けする可能性のある文字という広義の意味では依然機種依存文字と考えられます。)がすでに使用されています。

- ・ 設置基準など法令に基づいて実施していなければならない活動については、「○○に基づく」とその項目が明示されていれば、義務的に実施しているのか、積極的に実施しているのか見分けやすい。
- ・ 自己評価書が、観点ごとに本文(観点の内容)に根拠資料が差し込まれる形式で構成されていたが、本文編と根拠資料編との分冊にし、インデックスを付けるなど根拠資料が閲覧し易いよう、工夫された方がよいかもしれません。先に示された根拠資料が、あとの基準・観点で参照されることも少なからずあり、探し出すのに手間がかかる場合があります。
- ・ 長文で自己評価書が書かれてくるが、もう少し箇条書きのようにできないものか。
文章を読解するのは苦勞が多く、誤解を招く恐れもあると考える。
たとえばチェックリストを細かく設定することによって○×等で回答できれば理想である。
- ・ 対象校は自己評価書作成の時、単に資料をあげるだけでなく、資料についての説明(資料から何が言えるのかなど)を評価書に記入してほしい。
- ・ 精緻な記述がなされた自己評価書がある一方、言い方は悪いが、雑な自己評価書もあり困惑しました。
- ・ 根拠資料が縮小されて掲載され、見えにくいのがあった。読める程度の大きさに何とか努力して欲しい。
- ・ 自己評価書の文字数制限から説明を削ったところがあったようですが、対象校が知りたいことは説明に必ず含めるように伝えてください。
- ・ 教育目標などがそうであるように、全体にわたって関係してくる事項があります。評価基準毎でそれに矛盾が生じないように、全体をチェックしてもらうことを事前に伝えておいていただきたいと思います。(あたりまえのことかもしれませんが)

【評価担当者】

(2) 書面調査について

①機構が示した書面調査票等の様式の記入しにくかった点について

- ・ 記入のフォーマットがわからず、ご迷惑をおかけしました。

②書面調査を行うために必要であったと思われる参考となる情報（客観的データ等）について

- ・ 優れた点を洗い出すのに、先進的な高等専門学校の事例や自己評価書例があれば、判断しやすかった。

○書面調査についての意見、感想など

- ・ 書類を電子的にやりとりしているのだから、資料が載っているホームページがリンクされていれば、紙媒体で検索する手間を省くことができ、時間と資源の節約になると思う。
- ・ 経験が浅かったためか、評価内容をどのように記述すればよいのかが理解できなかった。研修等で、具体的な例を多く示していただければ理解が早かったのではないだろうか。
- ・ 書面調査結果の書き方などに慣れていないため、まとめ方に苦労した。
- ・ 最初の研修会で、書面調査票にどのように記述するのかについて、もう少し具体的に説明してもらうとよかった。
- ・ 対象校の自己点検書、手元に届いた資料で書面調査についてはほぼ確認できたと感じる。
- ・ 慣れない作業なので、非常にづらい調査でした。特に研修会から時間をおいての調査でしたので、すっかり忘れていた面もあります。研修会を受けて日をおかずに調査に入ることができればよかったかと思います。
- ・ 書面調査に与えられている時間があまりにも短く、十分な仕事ができただろうか、自信がありません。ご迷惑をおかけしたかもしれません。もう少し時間の余裕がほしかったように思います。

(3) 訪問調査について

⑤訪問調査の実施内容に係る時間配分の適切でなかった点について

- ・ 教育現場の視察時間は十分でない。
- ・ 教育現場の学習環境の状況調査の時間をもっとあれば良い。

○訪問調査についての意見、感想など

- ・ 訪問調査において、短時間に、対象校の教職員や学生など様々な方々との面談する機会があり、貴重な体験をさせていただいたと感じています。
- ・ 対象校との教育研究活動等の状況に関する共通理解が図れたかどうかはわからない。形式的な対応に終始したとも言えるし、共通理解を図ろうとする対象校のスタッフも見受けられた。調査団と学校の共通理解という意味では判断がつけられない。
- ・ 機構側の事務担当者の方によるスケジュール管理が、しっかりとなされており、訪問調査業務が滞ることなくスムーズに遂行されて、大変よかった。

【評価担当者】

- ・ 実際に訪問調査をしてみて、評価書の内容が理解できたり、曖昧なところが確認できたりした部分があった。また、評価書だけでは見えない部分、特に対象校の良さなどが調査で見えたりするなど、訪問調査は非常に意義あるものと感じた。

- ・ 実質 1.5 日の調査では致し方ありませんが、調査初日はスケジュールがタイトで、対象校が用意した資料に丁寧に目を通す時間がありませんでした。

訪問調査のための準備等、事務職員の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

- ・ 教育現場の視察及び学習環境の状況調査がいつもあわただしいように感じますが、全体の配分からいって、これ以上望むのは困難であることもよくわかります。

- ・ 成績評価資料のチェックであるが、特に、2年分のテスト問題において、“問題がある”と判断する基準をある程度、明確にする必要があると感じた。

- ・ 他の高等専門学校を調査することにより、いろいろと勉強になりました。特に、学生との面談、卒業生との面談はその地域の特徴が表れ、参考になりました。

- ・ 専門委員及び事務方に種々ご教示をいただき、いろいろなことを学ぶことができました。感謝しています。

1つ気になったのは、訪問調査が2日で終了することで、対象校への1日目のヒアリングが随分と遅い時間まで続いたことです。調査自体が、勤務時間内に終了するよう改善されるべきだと思います。

(4) 評価結果について

○評価結果についての意見、感想など

- ・ 「優れた点」の評価に際して、他校と違う特色ある点が取り上げられがちで、教育・研究の本道の客観的評価の基準や方法に工夫が必要な気がする。

- ・ 私の担当箇所の評価内容が、すこし的外れていたところがあったように思う。

(2)の書面調査で述べたように、経験の浅さが原因であったと思う。

具体的な内容、資料集を配付していただけると、経験の浅さを埋めることができるのではないかな。

- ・ 改善を要する点、優れた点は、最初の書面調査の時には記入せず、調査を行って、評価がはっきりしてから記述するようにした方が良いと思う。

- ・ 非常に完成度の高い自己評価書を提出されたA高等専門学校と、言い方は悪いですが、雑な自己評価書を提出されたB高等専門学校を担当させていただきました。

訪問調査時、B高等専門学校への指摘事項が多過ぎて、細かい改善すべき点が指摘の対象から外れてしまいました。一方、A高等専門学校では、例えば、B高等専門学校では実施されていない自己点検を完璧に実施されていたにもかかわらず、評価基準の問題のため、改善点として指摘されてしまいました。より良い学校として進化するために必要な指摘ではありますが、少しお気の毒な気がいたしました。

- ・ 高等専門学校個別校について、10-1-①、10-2-②、10-3-①、10-3-②の観点は実質

【評価担当者】

的な意味を有していないと考えられる。

- ・ あまりに文章表現の統一に拘ると、評価結果が形式的に感じられることもある。

3. 研修について

○研修についての意見、感想など

- ・ 非常に良くオーガナイズされており、有益であった。
- ・ 評価する立場では、自己評価書の内容からどのように評価をすればよいのかの資料のほうが必要である。具体的な事例を多く見たかったと感じている。
- ・ 限られた時間での研修なので無理かもしれないが、短時間での説明であった研修内容を研修時に理解することは難しかった。

また、評価者の立場で具体的イメージをもって、研修を受けることが出来なかったのも、個人的にはわかりやすい研修ではなかった。配付資料も多く、コンパクトにまとめられた資料が望まれる。

- ・ 一般的な評価書作成のための基準、留意点の説明だけでなく、評価者に対する留意点の説明があり、これが特に参考になった。

「自己評価書の分析にあたって一書面調査の記載方法及び評価の視点について」の説明・資料も評価基準の理解と実際の評価に役立った。

- ・ 研修時間が、いくぶん短いように感じました。各観点について、例えば過去実施された分析結果から具体例をお示しいただき、分析のポイントを説明していただいたならば、より理解が深まったように思います。
- ・ 講師の先生、ご教授いただきました内容を書面調査等に十分に反映できたとは思えませんが、要点をわかりやすくご提示いただきましたので、その後の作業がスムーズにできたと思います。
- ・ 研修会を調査の直前にしていただくと作業にうまく結びつくと思います。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

(1) 評価に費やした作業量について

○評価に費やした作業量についての意見、感想など

- ・ 関連資料の検索に膨大な時間を要した。
- ・ 自己評価書の書面調査において、担当の対象校の1次案の作成において作業量が大きかった。
- ・ 経験の浅さからくる作業効率の悪さが、作業量の増加を招いた。慣れてくれば負担に思わずできるのではないかと感じている。
- ・ 対象校の自己評価書を読むのに時間を要した。各校固有のシステム・設備などを理解して、自己評価書を読み書面調査に記入することは大変な作業であった。
- ・ 評価基準を理解し、自己評価書を読む作業が大変だった。
- ・ 本来は、準備万端整えて、各観点について書面審査を行わなければならないのであるが、校務、

【評価担当者】

研究、学会活動等が重なり十分な準備が整わず調査に入ってしまった。その後は、時間に追われる形となり、十分な調査が行えたかどうかは疑問点として残る。

- ・ 書面調査作成の要領がよくわかっていなかったので、手間取ってしまいました。その点について、事前にお教えいただけたら有り難く思いました。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

○機構が設定した作業期間についての意見、感想など

- ・ 「書面調査書作成（原案作成）」に要する期間が、短すぎるように感じる。
- ・ 自己評価書の提出期限から訪問調査までの作業スケジュール、訪問調査から評価結果（原案）の作成までの期間を考えれば、「適当」と判断するしかないかと思います。
- ・ 経験の浅さをカバーできる資料と時間が必要である。
- ・ 8月に研修会があって、最初の書面調査書を提出するまでの期間が短かった。
- ・ 書面調査であるが、不慣れな作業であるので、校務と重なると実質3週間での作業は時間的に厳しい面がある。

訪問調査への参加についても、対象校からの回答が1週間前であるので、校務と重なると書面調査同様、時間的に厳しいと感じる。

- ・ 書面調査の作成に手間取ってしまいました。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

○評価に費やした労力についての意見、感想など

- ・ 受験生、父兄、さらに進学元の中学校に対する情報提供としては、高等専門学校からだけでなく、このような客観的な評価が容易に参照できるような仕組みがあれば良いと思う。
- ・ 対象校がどう考えるかにより、判定されるものと思います。
- ・ 2校をつぶさに見るのは実際大変であったが、致し方ないことだと思う。
- ・ 担当分野からは、全体を判断することは困難である。
- ・ 自分が費やした労力が対象校に影響するかどうかは、対象校が今後、どのように今回の評価を反映させるかに因るところが大きいのと思われる。自分では見合うものであって欲しいことを希望する。

(4) 評価作業にかかった時間数について

○評価作業にかかった時間数についての意見、感想など

- ・ 自己評価書の書面調査原案の作成を担当された委員の負担は多大であったと思う。
- ・ 記録はないが、③（評価結果（原案）の作成）については数日のオーダーであると記憶してる。
- ・ 本当に大まかな時間です。

【評価担当者】

5. 評価部会等の運営について

○評価部会等の運営についての意見、感想など

- ・ 評価作業において、機構教職員への依存度が大きいと思われる。これは、評価部会の委員の多くが単年度で入れ替わることに起因すると思われる。多くの高等専門学校教員が、評価部会委員を経験し、認証評価について理解を深めていただくという機構の主旨は十分理解できるが、評価の効率化を考えると2年毎に委員の半数が交互に入れ替わる方が、良いのではないかとと思われる。
- ・ 正副部会長、事務局のご尽力により、部会運営は円滑であったと思う。
- ・ 機構専属の委員が適度にイニシアティブをとってくださったので特段の問題はない。
- ・ 専門部会の運営は、時間の制約から機構側でまとめていただいた内容を、事前に資料として送っていただいて、確認する形で行われた。事前配付資料の問題点を出し合う形での運営でもいいのかと思われる。

基本的に、部会員は1年の任期と思われるが、評価作業の仕方を理解したところで終わってしまうので、2年任期で半数入れ替えの部会員構成にする方が、仕事がよりスムーズに行われるのではと思われる。(ただ、多くの高等専門学校教員が評価作業を経験すべきであるとの考えがあるのなら、1年交代も仕方ない。)

- ・ 資料の準備や送付など、非常に丁寧な対応をしていただいたと思います。
- ・ 適切な運営と議論及び集約がなされていました。

6. 評価全般について

○評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についての意見、感想など

- ・ 現在、機構職員の方が評価書を処理される際に（例えば、評価者用書類から評価対象校提示用の書類を作成される場合）、Word文章をカット&ペーストされているのではないかとと思われる。これらの単調な作業は、作業の効率化および作業ミスの軽減を考えると、データベースシステム等を導入し、処理を自動化される方が良いのではないと思う。また、書面調査一次原案をWord形式ではなく、Excel形式にすれば、データベースとの連携もよく自動化しやすいと思われる。

(本校では、規格化された校務作業については自前のデータベースシステムを有しており、教職員の作業コストの軽減に有効に機能している。)

(例) Excelファイル -- (自動読込) --> DBシステム --> 必要な様式で出力

(2) 担当校の書面調査一次原案作成時に他の高等専門学校の状況が把握できれば、横並びの評価が可能と思われる。そこで、主担当者の書面調査一次原案が出たところで、各校の評価をまとめた簡易表があれば、他校の状況がわかりやすいと思う。また、同時にその時点での各校の「書面調査による分析状況」及び「訪問調査時の確認事項」が参照できるならば、なお良い。その上で、主担当校の評価を再度見直す機会が与えられるならば、分析状況等の文章量もある程度統一でき、事後作業の効率化にもつながると考えられる。なお、評価のまとめ簡易表もデータベースシステム等で自動化すれば、機構職員の作業コストを増加させることなく、簡単に作成可能である。

【評価担当者】

- ・ 対象校が直ちに対応するであろう多くは指摘された問題点の解消であろうと推察され、その意味では最低限の質の保証または底上げになると思う。
- ・ 認証評価を実体験することにより、その意図するところがよく理解できたように思います。加えて、対象校の様々な活動の内容や実状を知ることができ、大変参考になりました。
- ・ 評価側の立場で関われることは幸せである。経験を増し、所属校の発展にもつなげたい。一つ一つの高等専門学校が少しずつでもよくなることができれば、社会全体の利益につながると思っている。

貴重な体験をさせていただき感謝しています。どうもありがとうございました。

- ・ 他の高等専門学校を、評価者という立場であったが、多方面から見ることが出来て良かった。大変貴重な経験が出来てよかった。

今回の経験を所属組織の運営などに今後活かせるように努力したい。

- ・ 今回評価に携わって、他校の実情が細かくわかり、特に自分の学校にも取り入れたらよいと思われる取組等もあり参考になりました。また、認証評価のポイントも理解でき、自校での今後の取組に非常に参考になりました。

評価において、できるだけ対象校の優れた取組を見出そうという姿勢は非常に良いと思いました。

担当する対象校は、自分の所属する学校とは別の地域の学校が良いと思いました。同じ地域ではそれまでの交流（付き合い）で知っている先生もおおり、訪問調査後に会議などで顔を合わせる機会もあります。特に役職者の場合はやりにくくなると感じました。

- ・ 30年以上奉職していますが、初めて多角的な面から学校の運営基盤を考えさせられ、貴重な経験をさせていただきました。まもなく定年を迎えますので、この経験が大きく活かされる可能性が低いことが残念です。認証評価委員とは別に（例えば研修といった形）で、学校を運営する若手の幹部職員が、勉強できる機会がつかれないでしょうか。
- ・ 通常の校務、研究ではない仕事に携わる機会となり、高等専門学校の社会における役割について広い視野で考えさせられるよい機会となった。

この経験を活かして、今後の本務校での仕事で高等専門学校の発展に寄与していきたい。

- ・ 全体像がつかめておらず、書面調査時には自分の作業がなかなか進まなかったことがあり、評価案に不具合が多く、機構の関係方々には大変ご迷惑をおかけしたと思います。訪問調査を終えた頃にやっと解ってきたような気がします。

他の高等専門学校を評価することで自らを省みることができ、大変勉強になりました。また、機構職員の方々にはいろいろな手配を含めて大変お世話になりました。この紙面を借りて御礼申し上げます。

- ・ 高等専門学校制度の統一性と多様性についての認識が深まりました。また、仕事を共にした先生方や職員の方からいろいろなことを学ぶことができました。自分にとって得難い経験になったと思います。

【評価担当者】

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

①対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった点について

- ・ 前回の評価において「改善を要する点」として指摘されたものは、改善が見られた。
- ・ 訪問した2校を見る限り、校長をはじめ幹部教員は自校に対する前回の認証評価の結果をよく認識していると感じたが、他校との相対的な位置付けまで分析していたかどうかは疑問である。
- ・ 目標の設定の改善を促した。
- ・ 既にクリアすべき事項が処理されて、平常な状態でもクリアできている。(俄な準備ではない)
- ・ 本質的な「改善を要する点」は減っているように思います。
- ・ 学内のシステムおよび雰囲気が認証評価に向けて一つの方向性で動けることは、大きな効果及び影響と感ずる。

②対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった点について

- ・ 外部資金の獲得に向けた取組に際して、かなり積極的になっている印象を受けた。今後は、獲得された外部資金の有効な教育研究への活用策等について、見守っていくことができればよいのではないか。
- ・ 上述のとおり、自校の評価には十分に対応していたが、他校の評価にも注目して自校に反映するまでは至っていないという意味で、3と解答する。
- ・ 指摘されたところが改善されていると思えるので、改善の促進に効果があったと思っている。
- ・ 具体例として挙げるができるいろいろな取組がなされている。
- ・ 本質的な「改善を要する点」は減っているように思います。
- ・ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入方法の検討について。

平成24年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名 _____

今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、1～11の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものゝ記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままです。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のものについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

回答例①は、適切であった -----

5	4	3	2	1	3
5	4	③	2	1	

回答例②は、適切であった -----

(回答できない場合)

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

.....は、適切であった -----

5	4	3	2	1	－
---	---	---	---	---	---

1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 自己評価について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

迷った	迷って いない	
-----	------------	--

③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った -----

2	1	
---	---	--

→※③について、2 とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、分かりやすい自己評価書を作成することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2 又は 1 とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

参考にした	参考にしな かった	
2	1	

⑦ 自己評価書の作成にあたって、すでに機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした -----

・ 自己評価についてご意見、ご感想などをご記入ください。

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for the user to provide their own opinions and impressions regarding the self-evaluation.

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

④ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑥ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であると思うかをご記入ください。

--

⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

以下は、意見の申立てを行った対象校のみお答えください。

③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価のスケジュールの4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 評価に費やした作業量について

	＜作業量＞					
	とても 大きい (5)	←	適当 (3)	→	とても 小さい (1)	
	5	4	3	2	1	
① 自己評価書の作成	5	4	3	2	1	
② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査のための事前準備	5	4	3	2	1	
④ 訪問調査当日の対応	5	4	3	2	1	
⑤ 意見の申立て	5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想などをご記入ください。

①～⑤について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

<作業期間>

とても とても
長い ← 適当 → 短い
(5) (3) (1)

- ① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----
- ② 訪問調査のための事前準備 -----
- ③ 訪問調査当日の対応 -----
- ④ 意見の申立て -----

	5	4	3	2	1	
① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----						
② 訪問調査のための事前準備 -----						
③ 訪問調査当日の対応 -----						
④ 意見の申立て -----						

- ・ 機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(4) 評価のスケジュールについて

- ① 自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----
- ② 訪問調査の実施時期（10月上旬～12月中旬）は適当であった
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----

適当	適当でない	
2	1	
2	1	

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想などをご記入ください。

4. 説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。(⑧について、訪問説明を受けなかった対象校は回答欄に「-」をご記入ください。)

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 説明会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
② 説明会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
③ 説明会の内容は役立った -----	5	4	3	2	1	
④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った -----	5	4	3	2	1	
⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った -----	5	4	3	2	1	
⑧ 機構が行った訪問説明は役立った -----	5	4	3	2	1	
⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった -----	5	4	3	2	1	

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想などをご記入ください。

5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（1）評価報告書の内容等、（2）自己評価書及び評価報告書の公表、（3）評価結果に関するマスメディア等の報道の3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（1）評価報告書の内容等について

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	5	4	3	2	1	
③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度など）を考慮したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた ---	5	4	3	2	1	
⑧ 評価報告書の構成及び内容は分かりやすいものであった -----	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が分かりにくかったかをご記入ください。

⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった -----	5	4	3	2	1	
----------------------------------	---	---	---	---	---	--

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している

している	していない	
2	1	

② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している -----

2	1	
---	---	--

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)			
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた -----	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた -----	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した -----	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った -----	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進した -----	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2	1	
⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した -----	5	4	3	2	1	

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想などがありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる -----	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる -----	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する -----	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ -----	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2	1	
⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する -----	5	4	3	2	1	
⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する -----	5	4	3	2	1	
⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される -----	5	4	3	2	1	
⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2	1	
⑭ 広く社会の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2	1	
⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする -----	5	4	3	2	1	

・機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連してご意見、ご感想がありましたら、ご記入ください。

7. 評価結果の活用について

- ① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。
また、その変更・改善の際に、今回の評価ほどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。

非常に参考になった ← なった → あまり参考にならなかった
(5) (3) (1)

課題	(記入例) 【基準6】卒業生のアンケート結果から見て、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	「外国語の能力」の達成度を向上させるため、来年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

- ② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

1 貴校の広報誌に評価結果を掲載する。	2 貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。
3 資金獲得のための申請書に記載する。	4 学生募集の際に用いる。
5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。	
6 その他（具体的に）	
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> [</div>	

回答欄	
-----	--

8. 評価の実施体制について

貴校の評価の実施体制についてお教えてください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。

・評価（自己点検・評価、認証評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教えてください。「例」を適宜参考にし、分かりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいで結構です。

(記入例)

```
graph TD; A[自己点検・評価委員会] --- B[ワーキンググループ]; A --- C[評価推進室]; B --- D[〇〇学部作業チーム]; B --- E[〇〇〇〇];
```

自己点検・評価委員会
(役割)：評価結果についての最終決定
(形態)：常設
(構成)：学長、理事、・・・
(人数)：〇人

ワーキンググループ
(役割)：評価結果の審議
(形態)：常設
(構成)：理事、各学部長・・・
(人数)：〇人

評価推進室
(役割)：評価に関する事務
(形態)：常設
(構成)：室長、係長・・・
(人数)：〇人

〇〇学部作業チーム
(役割)：データ等の収集・整理
(形態)：臨時
(構成)：〇〇学部長、・・・
(人数)：〇人

〇〇〇〇

他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

・評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えてください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えてください。

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ② 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ③ 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

前回の認証評価を受けた時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

	非常に良く なっている (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	非常に悪く なっている (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった-----	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった ----	5	4	3	2	1	
⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった -----	5	4	3	2	1	
⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった-----	5	4	3	2	1	
⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	5	4	3	2	1	

・前頁の項目以外で良くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

・前頁の項目以外で悪くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

11. その他

- ・実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

- ・その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

平成24年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

ご氏名 _____

今回、当機構の評価に携わっていただき、どのように感じられたか、以下の1～7の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものゝ記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままです。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

回答例①は、適切であった -----

5	4	3	2	1		3
5	4	③	2	1		

回答例②は、適切であった -----

(回答できない場合)

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

.....は、適切であった -----

5	4	3	2	1	－
---	---	---	---	---	---

1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想などをご記入ください。

2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（1）自己評価書、（2）書面調査、（3）訪問調査、（4）評価結果の4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（1）自己評価書について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想などをご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点などがあればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

・書面調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

④ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

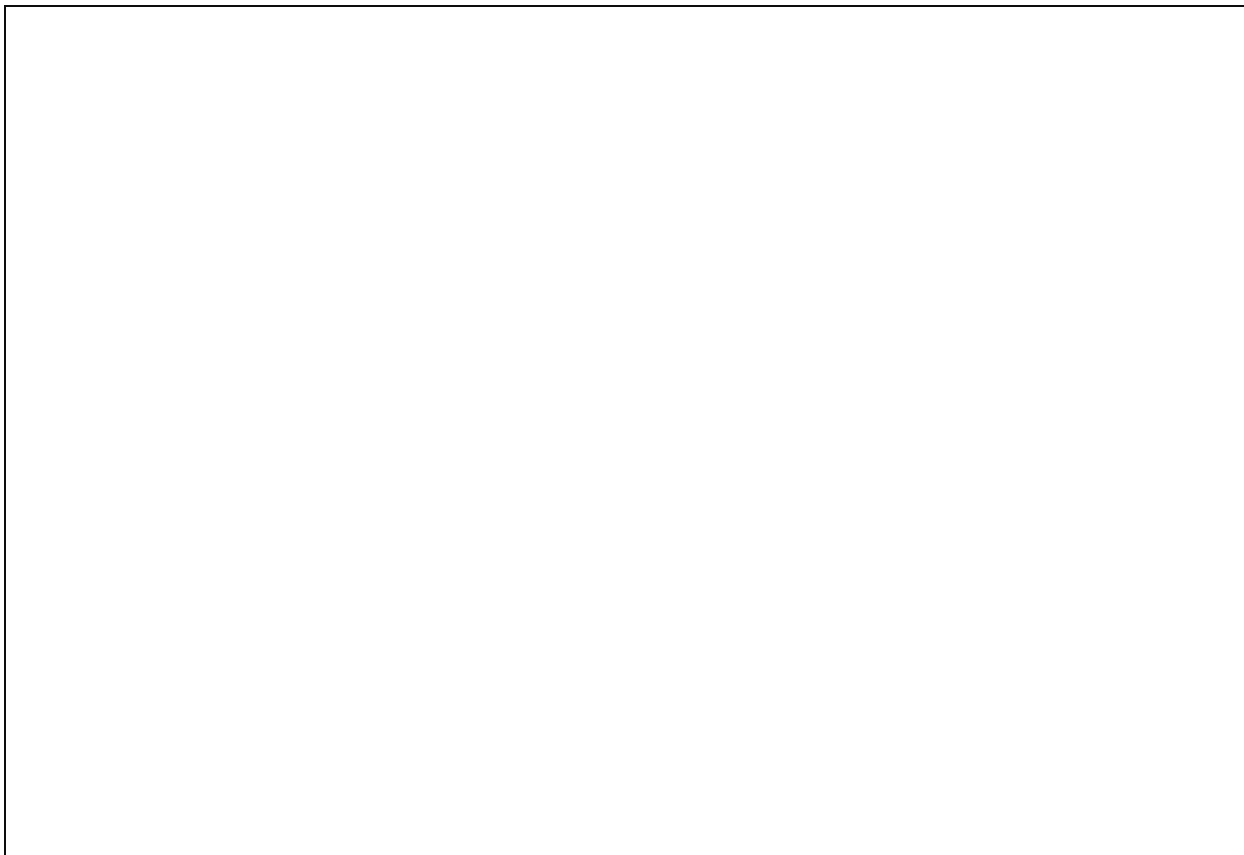
→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

--

⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 訪問調査についてご意見、ご感想などをご記入ください。



(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -	5	4	3	2	1	
② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価結果全体としての分量は適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった -----	5	4	3	2	1	

・ 評価結果についてご意見、ご感想などをご記入ください。

3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 研修の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
② 研修の説明内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
③ 研修の内容は役立った -----	5	4	3	2	1	
④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った -----	5	4	3	2	1	
⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった -----	5	4	3	2	1	

・ 研修についてご意見、ご感想などをご記入ください。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価作業にかかった時間数の4項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

(1) 評価に費やした作業量について

		＜作業量＞					
		とても 大きい (5)	←	適当 (3)	→	とても 小さい (1)	
①	自己評価書の書面調査	5	4	3	2	1	
②	訪問調査への参加	5	4	3	2	1	
③	評価結果（原案）の作成	5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想などをご記入ください。

①～③について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

<作業期間>

とても とも
長い ← 適当 → 短い
(5) (3) (1)

- ① 自己評価書の書面調査 -----
- ② 訪問調査への参加 -----
- ③ 評価結果（原案）の作成 -----

	5	4	3	2	1	
① 自己評価書の書面調査 -----						
② 訪問調査への参加 -----						
③ 評価結果（原案）の作成 -----						

・ 機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想などをご記入ください。

(4) 評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに概数でお答えください。

※1校あたりではなく、全体でかかった時間をご回答ください。

① 自己評価書の書面調査	およそ	<input type="text"/>	時間
② 訪問調査の準備	およそ	<input type="text"/>	時間
③ 評価結果（原案）の作成	およそ	<input type="text"/>	時間

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想などをご記入ください。

5. 評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 部会運営は円滑であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・ 評価部会等の運営についてご意見、ご感想などをご記入ください。

6. 評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響など評価全般について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ←言えない (3)	全くそう →思わない (1)			
① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う -----	5	4	3	2	1	
② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う ----	5	4	3	2	1	
③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----	5	4	3	2	1	
④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----	5	4	3	2	1	
⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	4	3	2	1	
⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった -----	5	4	3	2	1	

・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想などをご記入ください。

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった --

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。